

北大時報

August 2009

No.665

平成21年

8

**インドネシア共和国 ボゴール農業大学、
カナダ ダルハウジー大学と
大学間交流協定を締結**

お知らせ

●共済組合員証等の検認



教官在職25年記念絵葉書 (関連記事37頁に掲載)

目次

全学ニュース

- インドネシア共和国 ボゴール農業大学と大学間交流協定を締結…………… 1
- カナダ ダルハウジー大学と大学間交流協定を締結…………… 2
- 平成 21 年度総長室重点配分経費「公募型プロジェクト研究等支援経費」採択結果…………… 3
- 平成 21 年度（財）北海道大学クラーク記念財団助成事業の決定…………… 7
- 北海道大学入試説明会を実施……………11
- 「北海道大学 緑のピアガーデン 2009」を開催……………11
- 北大フロンティア基金……………12
- （財）北海道大学クラーク記念財団への寄附……………14
- 外来種ドクニンジンの撤去作業を実施……………14
- 平成 21 年度第 1 回 JICA 北大連携国際協力セミナー「国際協力の仕事を志す人へのガイダンス」開催……………15
- 国際シンポジウム「プロフェッショナル・ディベロップメントの諸相」を開催……………16
- 「交換留学説明会」を開催……………18
- 平成 21 年度交換留学生に対する出発前オリエンテーションを実施……………19
- 留学生と地域との交流「ホリデー イン 日高」…20
- 放射線障害防止のための教育訓練の実施……………21
- 平成 21 年度北海道大学公開講座「現代社会と倫理 -安全・安心なくらしを実現するために-」…22

部局ニュース

- 情報基盤センター、大韓民国 高麗大学校師範大学・教育大学院との部局間交流協定を締結……………23
- 総合博物館開館 10 周年記念企画展示「生物多様な部屋 - 北大の分類学の系譜 -」が開幕……………24
- 先端生命科学研究院に寄附分野設置 - 健康状態の定量化 (フィールファイン) 分野 -……………26
- スラブ研究センターで新学術領域研究の国際シンポジウム開催……………27
- 日韓ジョイントシンポジウム
2nd Symposium on Structural Analysis of Biological Macromolecules & 7th Japan-Korea Bilateral Symposium on Biological NMR……………28
- 経済学部で成績優秀者表彰式を実施……………29
- 経済学研究科で講演会「世界的不況とアジア金融危機の教訓」を開催……………30
- 経済学部がディベート大会に向けてイベントを開催……………31
- 平成 21 年度文学研究科・文学部公開講座「古い翔る - 人生の達人という夢 -」が終了……………32
- 薬学部附属薬用植物園で「薬用植物園の見学会」を開催……………33
- 函館キャンパスで「夏だ！北水ピアガーデン」を開催……………34

- 水産学部が函館港まつり「ワッショイはこだて」に参加……………35
- 第 61 回日米学生会議参加者 72 名が北大水産学部を訪問……………36
- 高尾彰一郵便資料コレクションを大学文書館で受贈……………37
- 総合博物館土曜市民セミナー「だれが標本を守るのか - 研究でも教育でもない博物館の役割 -」が開催される……………38
- 「カルチャーナイト 2009」に参加 “チェンバロと星空の夕べ” 開催……………39
- 第 4 回北海道大学教育 GP セミナー「知られざる北海道写真の展覧会を作る - 北大総合博物館水産科学館の資料を利用した学生の試み -」開催……………40
- 総合博物館でパラタクソノミスト養成講座を開催……………41
- 中国医院協会訪日団が北海道大学病院を訪問……………43
- 北海道大学病院で「ピアノ演奏会」を連続開催……………44
- 「いろいろな葉っぱを探そう！ - 初めてでも出来る植物採集と標本作り -」を開催……………45
- ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～「身近なくだものの品種改良の科学」を開催……………46
- 附属図書館で EU i (EU 情報センター) セミナーを開催……………47

お知らせ

- 共済組合員証等の検認……………48

告示

- 北海道大学告示第 3 号 (平成 21 年 7 月 31 日) ……48

寄稿

- 北大は 21 世紀のランドグラント大学を目指せ ……49

レクリエーション

- 平成 21 年度北大山岳会のハイキング ……51
- 教職員テニス大会の開催……………53

表敬訪問

- ……………55

諸会議の開催状況

- ……………57

学内規程

- ……………59

人事

- 新任理事紹介……………62
- 新任教授紹介……………63

訃報

- 名誉教授 小林 晴夫 氏……………64

表紙：教官在職25年記念絵葉書

裏表紙：北の息吹[®] エゾトウヒレン (*Saussurea riederi* ssp. *yezoensis* var. *elongatum*)

全学ニュース

インドネシア共和国 ボゴール農業大学と
大学間交流協定を締結

7月29日(水)、インドネシア共和国のボゴール農業大学との学術交流に関する協定及び学生交流に関する覚書の調印が行われました。京王プラザホテル札幌で開催された調印式には、ボゴール農業大学からHerry Suhardiyanto学長ら4名、本学から佐伯総長、本堂副学長、上田農学研究院長、南川地球環境科学研究院長ら10名が出席しました。

ボゴール農業大学は1963年にボゴール市に設立された大学です。9つの学部を有し、学生約

21,000人、教員約1,300人を擁しています。本学では、農学研究科(当時)が2000年7月に部局間交流協定を締結して交流を深めてきました。

これらの交流実績を踏まえ、今後全学的な交流を推進していくために、このたび農学研究院が責任部局となり、地球環境科学研究院を関係部局として、ボゴール農業大学との大学間交流協定が締結されました。この協定締結により、両大学の交流がさらに深まっていくことが期待されます。



記念品を交換する佐伯総長と Suhardiyanto 学長



調印式後の記念写真

(学術国際部国際企画課)

カナダ ダルハウジー大学と大学間交流協定を締結

7月30日（木）、カナダのダルハウジー大学との学術交流に関する協定の調印が行われました。京王プラザホテル札幌で開催された調印式には、ダルハウジー大学からSusan Spence Wach副学長補佐、本学から佐伯総長、本堂副学長、脇田副学長、望月文学研究科長ら6名が出席しました。

ダルハウジー大学は1818年に設立されたカナダの東海岸にある大学です。工学、理学、経営学、法学など10の学部からなり、学生数は約15,000人、教員は約1,000人を数えます。本学と

ダルハウジー大学は、特に海洋分野や教育開発分野で活発な交流を行ってきました。

これまでの交流実績を踏まえ、全学的な交流に発展させるために、このたび高等教育機能開発総合センターが責任部局となり、文学研究科、水産科学研究院及び北方生物圏フィールド科学センターを関係部局として、ダルハウジー大学との大学間交流協定が締結されました。今後も両大学の交流が活発に行われることが期待されます。



協定書を手に握手する佐伯総長と
Wach 副学長補佐



調印式後の記念写真

(学術国際部国際企画課)

平成21年度総長室重点配分経費 「公募型プロジェクト研究等支援経費」採択結果

本学の重点配分経費による「公募型プロジェクト研究等支援経費」について、平成21年度の募集に対する採択結果は、次のとおりです。

「大型融合プロジェクト研究支援」は5件の

採択(申請8件)、「全国規模研究集会等の開催支援」は2件の採択(申請3件)、「若手研究者自立支援」は38件の採択(申請70件)となり、採択総金額は51,900千円でした。

1 大型融合プロジェクト研究支援

採択数 5件 採択金額 15,000千円

単位(千円)

採択者	所属・職名	研究題目	決定額
児矢野マリ	法学研究科・ 教授	持続可能な21世紀社会に向けた環境法・政策の深化－グローバルな環境法・政策の実現過程の動態－	3,000
瀬谷 司	医学研究科・ 教授	ケミカルバイオロジーと遺伝子改変マウスを用いたがんの免疫療法の確立	3,000
樋田 京子	歯学研究科・ 特任准教授	がん制御を目指したがん間質組織の多様性解析	3,000
田口 精一	工学研究科・ 教授	進化酵素とバイオリファイナリー原料が駆動する乳酸ポリマー生産微生物工場の開発研究	3,000
柏崎 晴彦	北海道大学病院・ 助教	海洋資源を活用した生命機能バイオマテリアルの創出	3,000

2 全国規模研究集会等の開催支援

採択数 2件 採択金額 3,626千円

単位(千円)

採択者	所属・職名	研究題目	決定額
谷 知己	電子科学研究所・ 准教授	若手研究者主体の横断的研究交流による新規学術領域の創成	700
本間 研一	脳科学研究教育センター・ 教授	脳科学研究の新展開：環境と生活史による脳機能の適応変化とその崩壊	2,926

3 若手研究者自立支援

採択数 38件 採択金額 33,274千円

単位(千円)

採択者	所属・職名	研究題目	決定額
眞嶋 俊造	文学研究科・ 准教授	武力紛争における回復的正義に関わる研究	870
宮澤信二郎	法学研究科・ 特任准教授	企業戦略と法政策の連関分析のための基礎モデル構築を目指して	750
下村 太一	法学研究科・ 助教	産炭地域振興をめぐる中央と地方の政治過程	584
Hazucha, Branislav	法学研究科・ 助教	デジタル時代における著作権法の十分な遵守を実現するための「説得」と「抑止力」の役割に関する実証研究－インターネット・ユーザを題材に－	1,000
大場 雄介	医学研究科・ 准教授	癌細胞の環境適応因子の機能解析	1,000
小林 純子	医学研究科・ 助教	黄体機能調節因子のシグナル伝達におけるガレクチンの機能解明	1,000
宮本 直樹	医学研究科・ 特任助教	放射線治療における高精度疾患セットアップを目的としたホログラフィックプロジェクトシステムの基盤技術開発	1,000
阿部 薫明	歯学研究科・ 助教	マイクロ/ナノ粒子の体内動態の解明とその到達臓器由来細胞への毒性評価	1,000
大賀 則孝	歯学研究科・ 助教	緑茶カテキンによる腫瘍血管を標的とした新たながん治療の試み	1,000
梶井 貴史	歯学研究科・ 助教	ゲノムワイド関連解析を用いた顎顔面変形症の発症予測システム構築	750
佐野 大輔	工学研究科・ 准教授	腸管系ウイルスの消毒剤耐性獲得メカニズム解明	750
森 傑	工学研究科・ 准教授	公共施設の複合化・用途転用とその建築計画技術に関する国際比較研究	1,000
山田 朋人	工学研究科・ 准教授	全球気候モデルと土壌水分特性を用いたアジア地域における河川流量予測	1,000
佐藤 太裕	工学研究科・ 助教	ナノ構造体の優れた力学特性を利用した新しい高強度構造材料の創製	750
松本謙一郎	工学研究科・ 助教	優れた物性を有するバイオプラスチックを生産するバイオプロセスの開発	570
村上 尚史	工学研究科・ 助教	フォトリソグラフィ結晶および液晶素子による焦点面マスクコロナグラフの開発	1,000
大田 寛	獣医学研究科・ 助教	犬の炎症性腸疾患における接着分子クロードインの発現変動	1,000
岡松 優子	獣医学研究科・ 助教	エネルギー消費組織：褐色脂肪の増殖・機能分化機構の解明	1,000

単位(千円)

採択者	所属・職名	研究題目	決定額
櫻井 達也	獣医学研究科・助 教	アフリカトリパノソーマとツエツエバエの相互作用に関する研究	750
池辺 将之	情報科学研究科・准 教 授	時間量子化器を有する CMOS イメージセンサ用小面積・高速 A/D 変換器の研究・開発	750
張 浩徹	理学研究院・准 教 授	自己組織化過程の定量化を指向したレドックス活性液晶の動的状態変換	1,000
渡邊 剛	理学研究院・講 師	サンゴコアセンター構想構築のための若手研究者ネットワーク形成	750
南谷 哲宏	理学研究院・助 教	大・小マゼラン雲中の巨大分子雲と星形成のサブミリ波観測による研究	750
齋藤 望	薬学研究院・准 教 授	遷移金属錯体による触媒的不斉多成分連結反応の開発と創薬化学研究への展開	1,000
中谷 朋昭	農学研究院・助 教	食をめぐる事件と食品関連企業の株価変動に関する計量経済学的研究	750
神谷 昌克	先端生命科学研究院・助 教	傷口の修復に関与する分子 HCP の機能発現の分子機構の解明	750
古澤 和也	先端生命科学研究院・助 教	傾斜物性および構造異方性を有するゲルを用いた組織培養法の確立	1,000
北村 秀光	遺伝子病制御研究所・准 教 授	がん患者を対象とした樹状細胞の機能制御による新規がん免疫療法の開発	1,000
前田 直良	遺伝子病制御研究所・助 教	インフルエンザウイルス H1N1 感染で発症する急性肺障害におけるインターロイキン-15, およびオステオポンチンの機能解析	750
大栗 敬幸	遺伝子病制御研究所・特 任 助 教	癌ワクチンの開発を目指した新規癌抗原ヘルパーペプチドの探索	750
大西なおみ	遺伝子病制御研究所・特 任 助 教	誘導発現型ヘリコバクター・ピロリ cagA 遺伝子導入マウスの作製	1,000
脇田 大功	遺伝子病制御研究所・特 任 助 教	腫瘍内環境における IL-17 産生 γ δ T 細胞を中心とした免疫制御機構の解明	750
高草木 達	触媒化学研究センター・准 教 授	一原子単位で厳密にサイズ制御した高性能担持金属ナノクラスター触媒の開発	1,000
青木麻衣子	留学生センター・講 師	多文化国家オーストラリアの留学生施策-基準の維持と支援の提供	750
木村 真明	創成研究機構・特 任 助 教	酸素・イオン同位体に現れる分子構造の性質・発現機構の解明と恒星内部での元素合成過程への応用	1,000
佐竹 暁子	創成研究機構・特 任 助 教	隔年開花の分子機構を探る: 大規模野外実験と遺伝子発現解析	1,000
田中 良和	創成研究機構・特 任 助 教	RNA 修飾酵素 Thil の分子機構の解明	1,000
多留 偉功	創成研究機構・特 任 助 教	神経変性疾患と神経シナプス形成に関する実験モデル系の導入と生理機能解析	1,000

○総長室重点配分経費の審査について

区 分	申 請 対 象
【大型融合プロジェクト研究支援】	<ul style="list-style-type: none"> ・本学研究者をリーダーとして、大型融合プロジェクトを立ち上げ、大型の競争的資金（単年度1億円以上）への応募を行うものを対象とする。 ・会議出席、情報収集及び打合せなどの経費（旅費を含む）、また、競争的資金獲得に要する必要な経費について総合的に支援する。
【全国規模研究集会等の開催支援】	<ul style="list-style-type: none"> ・本学研究者とリーダーとして、プロジェクト研究等をさらに展開するために必要とする全国規模の研究集会、集中討議、会議等の開催を対象とする。 ・全国規模の研究集会、集中討議、会議等の開催に要する経費（旅費も含む）について支援する。
【若手研究者自立支援】	<ul style="list-style-type: none"> ・若手研究者が自らの発想を豊かにし、将来の科学技術を担うための新しい経験、研究分野の開拓など、幅広く見識を重ねることを対象とする。 ・現在の研究テーマ推進のための経費としてだけでなく、新しいシーズの発掘のための調査経費、海外での研究ネットワーク構築などに要する経費について支援する。

・審査基準

【書類審査】

研究戦略室審査員による、書類（申請書）審査を実施。

（全体）

- ・研究目的の明確さ・独創性
- ・研究の質の高さ
- ・研究の発展性
- ・研究実施体制の整備状況

（大型融合プロジェクト研究支援）

- ・研究プロジェクトの準備状況
- ・研究代表者の研究遂行能力（大型の競争的資金による研究を企画・立案・推進する能力）

（全国規模研究集会等の開催支援）

- ・全国規模の研究集会等の開催の必要性、研究目的等との関連性及び期待される効果等

【ヒアリング審査】

- ・研究課題の主旨
- ・応募を予定している大型競争的資金等の名称
- ・今後の研究展開等

（学術国際部研究協力課）

平成21年度(財)北海道大学クラーク記念財団 助成事業の決定

(財)北海道大学クラーク記念財団では、本学の教育研究、学生支援及び学術講演会等に対し毎年助成事業を行っておりますが、本年度に

つきましては次のとおり決定いたしました。

なお、助成金額は、今後の予定も含めまして総額42,656,000円となっております。

1. 教育研究活動支援事業

(1)博士後期課程在学学生研究助成

採択数 15件 採択金額 7,450,000円

氏名	所属部局等	学年等	研究課題名	助成額
大野 裕司	文学研究科	DC 3年	中国古代における術数の基礎的研究	500,000円
佐野 正和	理学院	DC 3年	素粒子理論に基づくブレーンを利用したダークマターと銀河物理の研究	500,000円
泉田 勇輝	理学院	DC 2年	非平衡熱機関の統計力学的研究	500,000円
張 郁芬	理学院	DC 1年	生物発光エネルギー移動を利用した鉛イオン (Pb ²⁺) 指示薬の開発	500,000円
藤田 靖幸	医学研究科	DC 4年	重症型表皮水疱症に対する骨髄由来細胞を用いた治療法の研究	500,000円
須藤 洋一	医学研究科	DC 3年	抗体様分子 VLR を利用した抗体に換わる新たな検出試薬の開発	450,000円
夏賀 健	医学研究科	DC 3年	生体内表皮幹細胞への遺伝子導入	500,000円
王 磊	医学研究科	DC 3年	Crk スプライシング調節分子及び CD133 発現制御分子と脳腫瘍幹細胞の相関の検証	500,000円
佐々木知幸	医学研究科	DC 4年	血小板におけるストレス応答性シグナル伝達経路に関する研究	500,000円
松岡 真琴	歯学研究科	DC 3年	高い細胞接着性および電気伝導性を併せ持つ生体再建材料の開発	500,000円
中林 沙耶	工学研究科	DC 2年	北海道産の天然多孔質材料を利用した空気浄化フィルターおよびシステムの開発	500,000円
鍛冶 栄作	情報科学研究科	DC 2年	マグネタイト薄膜表面の逆位相境界における磁気結合に関する研究	500,000円
宇治 利樹	水産科学院	DC 2年	多細胞真核生物における世代交代の多様化を制御する分子機構の研究	500,000円
石崎 智美	環境科学院	DC 2年	Sagebrush (Artemisiatridentata) における植物間コミュニケーションと誘導防衛反応メカニズムの解明	500,000円
Anas, Andrea Roxanne Jocsing	環境科学院	DC 1年	シアノバクテリア由来ペプチドのプロテアーゼ阻害機構	500,000円

(2)新渡戸基金研究助成

採択数 2件 採択金額 1,000,000円

氏名	所属部局等	学年等	研究課題名	助成額
星野洋一郎	北方生物フィールド科学センター	助教	新渡戸著「農業本論」に紐解く北海道園芸の潮流	500,000円
山岸 真澄	農学研究院	准教授	札幌キャンパスに自生するクロユリ集団の保全法の確立	500,000円

2. 教育研究国際交流支援事業

(1) 博士後期課程在学生海外派遣助成（学会等発表）

採択数 15件 採択金額 2,186,000円

氏名	所属部局等	学年等	会議名（開催国名）	助成額
湯浅 恭子	文学研究科	DC 3年	C.S. ルイスの『ペレランドラ』・2日間国際学会	150,000円
平田 健司	医学研究科	DC 3年	第56回米国核医学会総会	150,000円
今野幸太郎	医学研究科	DC 4年	第9回世界生物学的精神医学会	150,000円
斉藤 文男	歯学研究科	DC 4年	第7回国際矯正歯科学会	150,000円
井上 加菜	歯学研究科	DC 4年	第11回日韓歯科保存学会	150,000円
松岡 常吉	工学研究科	DC 2年	60th International Astronautical Congress	140,000円
中村 篤人	工学研究科	DC 3年	7th World Conference on Experimental Heat Transfer, Fluid Mechanics and Thermodynamics	150,000円
黄 香寂	獣医学研究科	DC 4年	2009年アジア動物専門医学会議	120,000円
内田 ゆず	情報科学研究科	DC 3年	North American Chapter of the Association for Computational Linguistics-Human Language Technologies (NAACL-HLT)	150,000円
加賀 達也	水産科学院	DC 3年	太平洋とインド洋の魚類に関する国際研究会議	150,000円
上澤 真平	理学院	DC 3年	第6回日本カムチャッカアラスカ沈み込みプロセスに関するワークショップ (6th Biennial Workshop on Japan-Kamuchatka-Alaska Subduction Processes)	150,000円
土方 野分	農学院	DC 3年	第6回国際菌根会議	150,000円
小倉 次郎	生命科学院	DC 2年	2009年米国薬科学会年会 (2009 AAPS Annual Meeting and Exposition)	150,000円
加藤 耕	教育学院	DC 3年	日本語教育国際研究大会 (JSAA-ICJLE2009)	126,000円
依田 真美	国際広報メディア・観光学院	DC 1年	第9回シンクタンク「持続可能な観光における価値観の重要性」	150,000円

(2) 学部学生等海外派遣助成（留学）

採択数 ①長期留学 25件 ②短期留学 10件 採択金額 6,950,000円

①長期留学（交流協定のある大学に私費留学する者）

氏名	所属部局等	学年等	留学先・留学期間	助成額
三浦 友里	文学部	2年	アメリカ合衆国（ウィスコンシン大学マジソン校） < H21. 8.26 ~ H22. 5.31 >	250,000円
谷口 奈々	文学部	3年	フランス（ストラスブール大学連合） < H21. 9.1 ~ H22. 6.30 >	250,000円
田部千絵子	文学部	4年	アメリカ合衆国（ハワイ大学ヒロ校） < H21. 8.17 ~ H22. 5.31 >	250,000円
平間 惇也	文学研究科	MC 2年	ロシア（モスクワ大学） < H21. 9.1 ~ H22. 6.30 >	250,000円
田中 大祐	文学研究科	MC 2年	ドイツ（ミュンヘン大学） < H21. 4.1 ~ H22. 2.28 >	250,000円
寺江 曜子	法学部	3年	アメリカ合衆国（ポートランド州立大学） < H21. 9.11 ~ H22. 6.20 >	250,000円
樋口 絢香	法学部	3年	ロシア（モスクワ大学） < H21. 9.1 ~ H22. 5.31 >	250,000円
明瀬李花子	法学部	3年	フランス（パリ政治学院） < H21. 9.1 ~ H22. 6.30 >	250,000円

氏名	所属部局等	学年等	留学先・留学期間	助成額
宮井 健志	法学部	3年	フランス(パリ政治学院) < H21.9.1 ~ H22.7.1 >	250,000円
津原茉悠子	法学部	4年	カナダ(アルバータ大学) < H21.9.10 ~ H22.1.10 >	250,000円
渡辺 拓也	法学部	4年	中国(北京大学) < H21.9.1 ~ H22.1.30 >	250,000円
阿野 有紗	経済学部	3年	アメリカ合衆国(オハイオ州立大学) < H21.9.10 ~ H22.6.20 >	250,000円
高見 和宏	経済学部	3年	中国(浙江大学) < H21.9.8 ~ H22.6.30 >	250,000円
木村荘一郎	経済学部	3年	ロシア(モスクワ大学) < H21.9.1 ~ H22.5.25 >	250,000円
根岸 達哉	医学部	4年	アメリカ合衆国(オレゴン大学) < H21.9.29 ~ H22.6.11 >	250,000円
山田 倫大	工学部	3年	アメリカ合衆国(ウィスコンシン大学マジソン校) < H21.8.20 ~ H22.6.20 >	250,000円
若槻 由加	農学部	3年	アメリカ合衆国(ハワイ大学ヒロ校) < H21.8.17 ~ H22.6.14 >	250,000円
高井 愛	農学部	3年	タイ(カセサート大学) < H21.9.1 ~ H22.8.31 >	250,000円
呉 垠	農学部	3年	フィンランド(オウル大学) < H21.9.1 ~ H22.6.30 >	250,000円
角 那以瑠	水産学部	4年	フランス(グルノーブル大学連合) < H21.8.25 ~ H22.7.31 >	250,000円
浦西 茉耶	水産科学院	DC2年	アメリカ合衆国(アラスカ大学) < H21.8.28 ~ H22.5.30 >	250,000円
目黒悠一郎	水産科学院	DC2年	アメリカ合衆国(ハワイ大学マノア校) < H22.1.5 ~ H22.5.15 >	250,000円
宮本 菜美	教育学部	3年	アメリカ合衆国(ポートランド州立大学) < H21.9.5 ~ H22.6.23 >	250,000円
安村 希望	教育学部	3年	アメリカ合衆国(オレゴン大学) < H21.9.17 ~ H22.6.11 >	250,000円
工藤さくら	教育学部	3年	フィンランド(オウル大学) < H21.9.1 ~ H22.5.1 >	250,000円

②短期留学(全学教育における語学成績の優秀な者)

氏名	所属部局等	学年等	留学先・留学期間	助成額
林 祥史	文学部	2年	イギリス(オックスフォード大学) < H22.2.15 ~ H22.3.31 >	70,000円
上田 順子	法学部	2年	スイス(ジュネーブ大学) < H21.8.3 ~ H21.8.21 >	70,000円
加納 潤平	法学部	2年	ニュージーランド(オークランド大学) < H22.2.14 ~ H22.3.13 >	70,000円
桜田 拓弥	法学部	2年	中国(浙江大学) < H22.2.下旬 ~ H22.3.下旬 >	70,000円
富田 由衣	法学部	2年	中国(復旦大学) < H21.8.20 ~ H21.9.3 >	70,000円
山田 大志	理学部	2年	ニュージーランド(オークランド大学附属語学学校) < H22.2.10 ~ H22.3.12 >	70,000円
樋田 翔吾	農学部	2年	イギリス(Manchester Academy of English) スペイン(Kingsbrook Spanish school) < H21.9.14 ~ H22.9.10 >	70,000円
西 達也	獣医学部	2年	ニュージーランド(オークランド大学) < H21.9.5 ~ H21.9.19 >	70,000円

全学ニュース

氏名	所属部局等	学年等	留学先・留学期間	助成額
町野 文規	医学部	2年	ドイツ（マルチンルター大学） < H21.8.24 ~ H21.9.11 >	70,000円
堀口 美香	医学部	2年	ドイツ（ミュンヘン大学） < H21.8.2 ~ H21.8.29 >	70,000円

(3)外国人留学生奨学金助成（給付・単年度限りとする）

採択数 3件 採択金額 1,800,000円

氏名	所属部局等	学年等	国籍	助成額
池 兼憶 <small>ヘイオク</small>	文学研究科	DC 1年	台湾	月額 50,000円
李 嗣堯 <small>シヤオ</small>	経済学研究科	DC 3年	台湾	月額 50,000円
王 万永 <small>マンエイ</small>	教育学院	DC 1年	中国	月額 50,000円

3. 奨学育英事業

学部学生奨学金助成（貸与）

採択数 ①平成21年度新規 10件 ②継続者 24件 採択金額 20,160,000円

①平成21年度新規

氏名	所属部局等	学年等	貸与期間	助成額
渡邊真布由	理学部	1年	H21年4月～H25年3月	月額 50,000円
金沢 幸雄	医学部（医学科）	3年	H21年4月～H25年3月	月額 50,000円
藤居 瑠彌	理学部	4年	H21年4月～H22年3月	月額 50,000円
斉藤 真之	経済学部	1年	H21年4月～H25年3月	月額 50,000円
吉田羽都希	経済学部	2年	H21年4月～H24年3月	月額 50,000円
吉田 郁未	経済学部	1年	H21年4月～H25年3月	月額 50,000円
本村 拓斗	工学部	1年	H21年4月～H25年3月	月額 50,000円
渡辺 祥太	工学部	1年	H21年4月～H25年3月	月額 50,000円
嶋田 翔太	医学部 （保健学科）	1年	H21年4月～H25年3月	月額 50,000円
小山内 唯	水産学部	2年	H21年4月～H24年3月	月額 50,000円

【今後の予定】

4. その他の事業

(1)学業優秀者表彰助成（クラーク賞）

採択数 50件 採択金額1,050,000円

(2)学術講演会等助成

採択数 3件程度 採択金額1,600,000円

パイプオルガン演奏会, 学術講演会等

(総務部総務課)

北海道大学入試説明会を実施

道内高等学校等の進路指導担当教諭を対象とした入試説明会を、7月16日(木)午前10時から学术交流会館において開催し、高等学校等から102校、143名の参加がありました。

説明会では佐伯総長の挨拶に続き、小内アドミッションセンター副センター長から本学の現状、及び平成22年度入試概要等についての説明がありました。

さらに、アドミッションセンター池田准教授からAO入試の説明の後、再び小内アドミッションセンター副センター長から、平成23年度以降の入試改革(総合入試)についての説明があり、活発な質疑応答が行われました。

また、説明会の一環としてアドミッションセンター教職員による個別相談会を実施し、総合

入試に係る質問、要望等が数多く寄せられました。



佐伯総長の挨拶

(アドミッションセンター)

「北海道大学 緑のビアガーデン2009」を開催

今年で4回目となる「緑のビアガーデン」を8月4日(火)から8月8日(土)までの5日間、本学百年記念会館とテラスで、レストランきゃら亭(東京ケータリング株式会社)、サッポロビール株式会社の協力、さっぽろ夏まつり実行委員会の後援を得て開催しました。

今年は、7月の天候が不順で開催期間中のお天気も心配でしたが、初日から最終日まで気温が25度以上の日が続き、おかげさまでたくさんのお客さまに足を運んでいただきました。

メニューには恒例となった北大農場の農産物を利用した「北大農場で採れたトマトの冷製スパゲッティ」や「北海道大学伝承『幻の味』永遠の幸プレスハムのステーキシュクルート添え」など、本学ならではのフードメニューが並び、とても好評でした。

今回は、初めての試みとして最終日の土曜日は、お昼の2時から開催しお客さまをお迎えしました。初めてのお昼の開催でしたが、夕方の落ち着いた雰囲気とはまた違った、明るい緑の下でビアガーデンを楽しんでいただきました。



爽やかな緑の中で



(総務部広報課)

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、法人化後の厳しい財政状況の下、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自律性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っていくこととしています。

期限を付さない、息の長い募金活動をすることとしています。平成18年から平成23年までの5年間で15億円から25億円の募金額を目指しています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

【北大フロンティア基金情報】

基金累計額（7月31日現在）

8,500件 1,315,730,159円

教職員の寄附率 22.2% (860件 / 3,874人)

< 8月のご寄附状況 >

法人等1社、個人199名の方々から8,354,420円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲載、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名

（法人等）

株式会社NIPPO北海道支店

（個人）

青木 清, 阿部 价男, 栗野 慎一, 五十嵐祐一, 大畑 昇, 奥山 克史, 小内 透,
加我 順一, 角 幸博, 金子 彬, 小森 元章, 渋谷 正人, 杉浦 秀一, 鈴木秀次郎,
瀬名波栄潤, 高 彰, 高田 民雄, 高橋 光彦, 武川利代己, 土家 琢磨, 寺澤 睦,
所 伸一, 豊田 威信, 中村 隆行, 奈良林 直, 野坂 政司, 野村紘一郎, 濱本富美雄,
早坂 孝一, 本間 敏史, 三浦 敏明, 村田 幸彦, 森 訓保, 安川 尚志, 山崎 賢司,
吉田 広志, 吉村 泰治

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人等）

株式会社NIPPO北海道支店

（個人）

奈良林 直, 本間 敏史, 吉村 泰治

○感謝状の贈呈



株式会社 NIPPO 北海道支店様 (8月17日)

○寄附者との懇談会

北大フロンティア基金では8月5日(水)に、昨年7月以降にご寄附いただいた高額寄附の方々をご招待し、総長との記念写真の撮影及び懇談会を開催しました。当日は、個人12組15名、企業11社24名及び学外ディレクター2名の方々が出席し、はじめに総長室の展示物についての説明があり、次いで総長室で佐伯総長と記念写真の撮影を行いました。その後、百年記念会館会議室において懇談会を開催し、佐伯総長から寄附へのお礼が述べられ、寄附者の方々と本学役員との懇談が和やかに行われました。



総長室にある展示物説明の様子



懇談会で高額寄附者の方々と懇談する佐伯総長

ご寄附のお申し込み方法

① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。

北大ホームページ

教職員向け

学内限定情報・システム

北大フロンティア基金のご案内(申込書)

<http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/gakunai/fund.pdf>

② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入していただくか、各局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ ———— 基金事務室(事務局1階・学内電話2012 / 2017)

(基金事務室)

(財)北海道大学クラーク記念財団への寄附

このたび、(財)北海道大学クラーク記念財団から、本年3月末をもって退職された方々から93万円のご寄附を賜った旨ご報告がありましたので、謹んでお知らせいたします。

同財団につきましては、毎年、本学の教育・研究及び学生支援のため、多額の助成事業を実

施していただいております。本学といたしましても、このたびのご厚志に対しあらためて感謝を申し上げます。

なお、ご芳名の掲載につきましては、ご本人の同意を得ておりますことを申し添えさせていただきます。

寄附者の御芳名（14名）（平成21年7月31日現在、敬称略）

五十嵐哲郎、池川昌弘、笠原稔、岸田勝己、工藤一彦、
小早川護、佐藤義治、須田勝彦、関口公男、高橋豊美、
南部昇、春名寛幸、三好晴子、若狭谷茂夫

(総務部総務課)

外来種ドクニンジンの撤去作業を実施

施設保全課では、7月13日(月)、14日(火)、恵迪の森・弓道場周辺の有毒植物ドクニンジンの抜き取り作業を博物館の高橋英樹教授指導のもと、施設保全センター職員7名等で実施しました。

近年、外来生物の動向について話題が多く、生態系の保全が危惧されるニュースが聞かれます。構内でも植生区域が拡大し在来種を消滅させる危険な状況にあります。特に、ドクニンジン(セリ科の二年草。高さ50～250センチ、茎には赤い斑点があり、植物全体が臭気を放っていることが特徴です。)は、有毒植物であり、大量の摂取は危険が高く、呼吸困難に続いて麻痺や言語障害を引き起こす可能性があります。

侵入経路は、実験等での標本廃棄が原因と考えられますので、教職員・学生の皆さん、植物標本を処分するときは安易に構内に捨てないようご協力願います。



抜き取り作業を行う施設保全センター職員等
(弓道場周辺)

(施設部施設保全課)

平成21年度第1回JICA北大連携国際協力セミナー 「国際協力の仕事を志す人へのガイダンス」開催

去る7月10日(金), 人文・社会科学総合教育棟において, 今年度第1回目のJICA北大連携国際協力セミナーを開催いたしました。

今回のセミナーでは, 国際公務員を目指している方, 将来国際協力分野で活躍したいと考えている方を対象とし, 国際公務員受験情報やキャリアプラン, 国際機関で働く職員の業務内容や国際ボランティア等, さまざまな角度から国際協力事業を捉え, 実際に国際協力事業に携わる3名に, 講演していただきました。また, 今回は初めての試みとして, 本学の国際協力事業への取り組みも紹介しました。

会場には, 本セミナー開催以来, 初めての100名を超える参加者が集まり, 質疑応答では, 国際公務員受験についての具体的な質問が多数寄せられ, 国際協力事業に対する関心の高さをうかがうことができました。

また, 参加者は講演終了後も講演者へ個別に質問するなど, セミナーは盛況のうちに終了しました。

今後も引き続き国際協力事業の援助に関わる人材の育成・確保を目的として, セミナーを開催いたします。

「国際協力の仕事を志す人へのガイダンス」

講演者：増尾 秀樹氏 (外務省国際機関人事センター課長補佐)

徳田小矢子氏 (JICA札幌国際センター職員)

大弥 路子氏 (JICA札幌国際センター市民協力調整員)

野田 昭彦氏 (北海道大学学術国際部国際企画課長)



外務省増尾氏の講演



真剣なまなざしで講演を聞く参加者達



質問する参加者



質問に答える野田課長

(学術国際部国際企画課)

国際シンポジウム「プロフェッショナル・ディベ ロップメントの諸相」を開催

国際シンポジウム「プロフェッショナル・ディベロップメントの諸相」が、7月30日（木）及び31日（金）の両日、情報教育館3階スタジオ型多目的中講義室で開催されました。

このシンポジウムは、北海道大学と筑波大学共催の国際シンポジウム「高等教育におけるプロフェッショナル・ディベロップメント」のプログラムBとして実施されました。（プログラムAは、筑波大学で7月27日（月）及び28日（火）に開催）

シンポジウムには、講演者及び本学・筑波大学関係教職員29名のほか、2日間でのべ約100名の参加がありました。

当日は、脇田理事・副学長の挨拶の後、国内外各大学講演者により英語で講演が行われました。

両日を通して同時通訳を配し、パネルディスカッションでは活発に意見交換が行われました。

また、第1日目の講演終了後、札幌アスペンホテルにおいて、情報交換会（WELCOME PARTY）が開催され、講師等を含めた35名の参加者があり、貴重な情報交換の場となりました。

プログラム概要

第1日目

セッション1：高等教育におけるプロフェッショナル・ディベロップメント ～カナダと米国の事例～

講演1-1 リン・テイラー（カナダ・ダルハウジー大学）「研究大学におけるGTA（Graduate Teaching Assistant）訓練～ダルハウジー大学の例～」

講演1-2 パメラ・ヴォーグ（米国・サンフランシスコ州立大学）（※講演者の事情により来日不可能となり発表取りやめ）

講演1-3 細川 敏幸（北海道大学）「北海道大学の新任教員研修，FD，TA研修」

ディスカッション

「日本と米国におけるプロフェッショナル・ディベロップメント」

石田東生（筑波大学），ジョディ・D・ナイキスト（米国・ワシントン大学）

セッション2：高等教育におけるプロフェッショナル・ディベロップメント ～中国と韓国の事例～

講演2-1 シ ジンファン（中国・清華大学）「清華大学の組織的プロフェッショナル・ディベロップメント戦略」

講演2-2 イ ヘジュン（韓国・ソウル国立大学）「ファカルティディベロップメントとティーチングの質保証～ソウル国立大学の事例～」

講演2-3 宇田川 拓雄（北海道教育大学函館校）「日本の大学のティーチングセンターとプロフェッショナル・ディベロップメント」

第2日目

セッション3：プロフェッショナル・ディベロップメントの手法1

- 講演3-1 ジュディス・アン・オーミット (米国・インディアナ大学)
「学生の学習効果向上のための教員研修～授業成果に関する学生調査～」
- 講演3-2 山田 礼子 (同志社大学) 「同志社大学のティーチング改善のための学生調査JFS (新入生調査) とJCSS (上級生調査)」
- 講演3-3 ジョディ・D・ナイキスト (米国・ワシントン大学) 「ワシントン大学教育開発研究センターにおけるマイクロティーチング」
- 講演3-4 山岸 みどり (北海道大学)
「日本の大学における授業開発コンサルタント (Instructional Consultants) の課題」

セッション4：プロフェッショナル・ディベロップメントの手法2

- 講演4-1 リンダ・フォンヘーネ (米国・カリフォルニア大学バークレー校) 「バークレー校の大学教員養成研修 (PFF)」
- 講演4-2 宇田川 拓雄 (北海道教育大学函館校) 「日本の大学における大学教授養成」
- 講演4-3 サブリナ・ソラッコ (米国・カリフォルニア大学バークレー校) 「アカデミックサービス～バークレー校の大学院生のためのアカデミックライティング・プログラム～」

ディスカッション

「日本と米国におけるアカデミック・ライティング」
宮本陽一郎 (筑波大学),
瀬名波栄潤 (北海道大学),
トム・ガリー (東京大学)



脇田副学長の挨拶



講演の様子

(高等教育機能開発総合センター)

「交換留学説明会」を開催

国際交流室及び留学交流課は、情報教育館3階スタジオ型多目的中講義室において「交換留学説明会」を7月7日（火）及び9日（木）に開催しました。

説明会では、冒頭に蟹江国際交流室役員補佐から、留学の計画を早期に立てて今から語学を含めた準備を進めることが非常に重要であるとのお話があった後、留学体験者からの報告や全体説明会終了後の個別相談などを有効に活用し、今回の説明会を留学について考えを深めるきっかけにしてほしい旨のメッセージがありました。

次いで、留学交流課より、北大の交換留学制度の概要及び7月下旬より募集開始が予定されている「平成22年度交換留学」の申請に必要な諸手続きについての説明があった後、交換留学

生としてスリランカ、アメリカ及びフィンランドの協定大学に留学した3名の学生より、豊富な留学体験談が披露されました。また、学生が留学の障害として懸念している「留学と就活」というテーマについて、留学経験者で既に就職活動を終えた学生が留学中及び帰国後の就職活動について、交換留学における経験が就職活動にどのように役だったかを具体的に説明しました。

国際交流室及び留学交流課は、海外留学説明会を定期的を開催する他、地域別・プログラム別説明会を充実させるなど、北大生の留学をより身近なものとするため、情報提供に努めています。留学交流課では、留学相談も受け付けていますので、留学希望の学生にご紹介いただければ幸いです。



「迷っていないで行動（留学）しよう！」
（留学体験談：アメリカ・オハイオ州立大学）



熱心に説明を聞く参加者

（学術国際部留学交流課）

平成21年度交換留学生に対する出発前オリエンテーションを実施

国際交流室及び留学交流課は、7月17日(金)に留学生センターにおいて、平成21年度交換留学生に対する出発前オリエンテーションを実施しました。

本オリエンテーションは、平成21年度に主に本学の大学間協定大学に留学を予定している学生を対象に行われたもので、約30名が参加しました。

冒頭に蟹江国際交流室役員補佐より、留学を目前に控えた学生達に対し、自身の留学経験から留学生活における留意点を織り交ぜた有意義なメッセージが贈られました。次いで、留学交流課より、出発前・滞在中及び帰国に際し、留意すべき事項について危機管理を含めた詳細な説明がありました。参加学生達は、出発を目前に控え、真剣な表情で聞き入っていました。オ

リエンテーション終了後、各学生の自己紹介が行われ、引き続き、昨年度及び一昨年度交換留学生として派遣された学生及び協定大学からの交換留学生等約20名を含めた交流会がにぎやかに行われました。

平成21年度の大学間協定大学等への派遣者は46名を予定しており、昨年度の派遣者数を上回っています。国際交流室では、交換留学を含めた海外留学の促進活動を行っています。学生の留学に対する意識を高めるため、目的別・地域別など工夫を凝らした説明会を実施すると共に、手近な留学機会として夏期・春期の休業期間中に短期語学研修プログラムを提供しております。留学交流課では、個別留学相談も実施しておりますので、興味のある学生にご紹介いただければ幸いです。



派遣学生自己紹介



留学を控え熱心に説明を聞く派遣学生

(学術国際部留学交流課)

留学生と地域との交流「ホリデー イン 日高」

留学生センター主催事業「ホリデー イン 日高」は、7月25日（土）、26日（日）の2日間、16カ国53名の外国人留学生とその家族が参加して開催されました。

今年で19回目となるこの交流事業は、日高町で開催される『ひだか樹魂まつり』に留学生が参加することにより、日本の伝統的なお祭りを体験し、地域の人々との交流を通して地方の生活・文化を学び、友好の輪を広げることを目的としています。

1日目は、昼過ぎに国立日高青少年自然の家に到着し、すぐに昼食を食べ、その後、「出会いのつどい」、そしてパレードで踊る「日高観光音頭」の練習をしました。今年は各留学生の理解が早く踊りのマスターが短時間ででき、踊りの師匠に大いに褒められ、いざパレードに出発ということになりましたが、雨が激しく降ってきてパレードに出るのはやむなく取り止めとなりました。

その後はお祭り会場にバスで移動し、出店を楽しんだり、ステージでの発表や「和太鼓フェスティバル」などいろいろな出し物を見学しました。

1日目の最後は、沙流川の川縁で打ち上げられる花火に歓声をあげました。

2日目は、「朝のつどい」に始まり、朝食の後に部屋の後片付けを行い、その後、再びお祭り会場で各種のゲームに参加して楽しみました。そのうち、丸太を切る速さを競う「木こりさん競争」では、不慣れなのこぎりに悪戦苦闘しましたが、賞品を勝ち取るなど善戦しました。

また、1チーム5人が300kgの丸太を運んでタイムを競う「流送レース」には、留学生チーム4チームが参加し、そのうちの2チームが3位、4位に入り、賞金を獲得しました。

最後の「別れのつどい」では、参加者を代表して中国の留学生から、この事業に参加して大変楽しかったと感想が述べられ、また、企画した関係者に感謝の言葉が述べられました。

両日とも梅雨前線や低気圧の余波を受けて雨に見舞われましたが、参加した留学生とその家族は、日高の雄大な自然の中で繰り広げられた祭りを通して地域との交流を深め、お互いに友情を深めることができた2日間でした。



ステージ参加留学生の「歌」の披露



木こりさん競争参加の留学生



流走レース参加の留学生



「ホリデー in 日高」参加留学生

(学術国際部留学交流課)

放射線障害防止のための教育訓練の実施

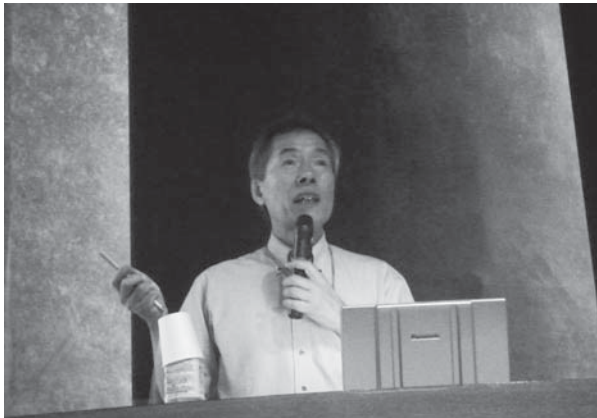
7月24日(金)に、放射性同位元素等の取扱者を対象にした「放射線障害防止のための教育訓練」をクラーク会館講堂で開催しました。

この教育訓練は、放射性同位元素等を取り扱う際の障害を防止するため、取扱者に必要な安全な取扱い及び関係法令等についての基礎的な知識等を身につけることを目的として、法令で受講が義務づけられているものです。

今回は、放射性同位元素等管理委員会の委員を講師として、「放射性同位元素等または放射

線発生装置の安全取扱い」「放射線の人体に与える影響」「関係法令」など、放射性同位元素等を取り扱う上で必要な基礎知識について、わかりやすい講義が行われました。

今年度の本教育訓練は、秋頃にも実施予定です。新たに放射性同位元素等を使用するに当たり、取扱者登録しようとする方及び更新登録を希望する方で、今年度にまだ受講していない方は、必ず受講してください。



佐藤委員長の講義



会場の様子

(学術国際部研究協力課)

平成21年度北海道大学公開講座「現代社会と倫理—安全・安心なくらしを実現するために—」

本年度の公開講座は、「現代社会と倫理—安全・安心なくらしを実現するために—」をテーマに7月2日（木）に開講され、30日（木）に終了しました。昨年来、米国発の金融危機に端を発する不況の進行は資本主義の暴走とも言いえる現代社会の構造的な危機を露にし、建築や食品の偽装、個人情報漏洩など私たちのくらしを脅かす“非倫理的な”事件が相次いでいます。このような社会の現状に、私たちはどのように備えるべきなのか、なぜそのような問題が起きるのか、どうしたらそのような問題をなくすことができるのかについて倫理をキーワードに講義を行いました。

具体的には、7月2日（木）から30日（木）まで、第1回「『リスク社会』を知る」（メディア・コミュニケーション研究院・筑和正格教授）、第2回「リスクの社会倫理」（文学研究科・藏田伸雄教授）、第3回「農業に内在する倫理性」（農学研究院・佐野芳雄教授）、第4回「循環型社会における安全・安心な社会基盤構造物」（工学研究科・杉山隆文教授）、第5回「遺伝情報と倫理・社会問題」（情報科学研究科・渡邊日出海教授）、第6回「企業不

正と倫理」（経済学研究科・吉見宏教授）、第7回「創薬開発と生命倫理」（薬学研究院・原島秀吉教授）、第8回「看護と倫理：患者・家族の生活の質を支えるために」（保健科学研究科・佐藤洋子教授）、の8つの講義が行われました。受講生は1回だけの受講者を含め延べ98名でした。

講演後には毎回受講者から熱心な質問が寄せられました。また、期間中、受講者を対象にした植物園のキャンパスツアーを実施した他、最終回には、インターネットを活用して西興部村公民館と北大とを結ぶ遠隔公開講座を実施しました。



講義の様子

(学務部教務課)

部局ニュース

情報基盤センター，大韓民国 高麗大学校師範大学・教育大学院との部局間交流協定を締結

情報基盤センターでは，7月23日（木）に，大韓民国高麗大学校師範大学・教育大学院と部局間交流協定を締結しました。本学事務局で行われた調印式には，高麗大学校から姜善甫（SunBo Kang）高麗大学校師範大学長・教育大学院長ら5名が，本学から山本情報基盤センター長ら5名が出席しました。

高麗大学校は，ソウル市に位置し，1905年に設立された普成専門学校を前身として1946年に設置された学生数約36,000人，教員約1,400人を擁する総合大学です。政財界に多くの優れた人材を輩出する一方，スポーツの名門としても知

られています。師範大学は1972年，教育大学院は1967年に設置され，優れた教育者を育成する一方，教育に関する研究に多大な実績をあげています。

情報基盤センターでは，2006年度からメディア教育研究部門を中心に，情報教育に関する研究交流を深めてきました。

これらの交流実績を踏まえ，今後さらなる交流を推進していくために，このたび部局間交流協定が締結されました。今後，この協定締結を機に，一層活発な交流推進が期待されます。



協定書を取り交わした
姜善甫高麗大学校師範大学長・教育大学院長（左）
と山本情報基盤センター長（右）



協定締結の記念撮影

（情報基盤センター）

総合博物館開館10周年記念企画展示「生物多様な部屋－北大の分類学の系譜－」が開幕

北海道大学総合博物館は平成11年に創設され、本年度で創設10周年を迎えます。10周年記念の催しとして、企画展示、サテライト展示、セミナー等、もり沢山のイベントが予定されています。その一つとして企画展示「生物多様な部屋－北大の分類学の系譜－」が8月1日（土）から9月27日（日）まで総合博物館3階企画展示室において毎日9：30～16：30に開催されています。毎週月曜日が休館日ですが、月曜日が祝日の場合は翌日が休館となります。ただし、8月3日（月）と9月21日（月）は臨時開館、9月13日（日）と9月24日（木）は臨時閉館いたします。皆様のお越しを総合博物館関係者一同お待ち申し上げます。



岡田理事・副学長の祝辞

7月31日（金）10：00、「生物多様な部屋－北大の分類学の系譜－」のオープニングセミナーが開催されました。佐伯浩総長代理の岡田尚武副学長のご挨拶に始まり、3階の企画展示室前でのテープカットに続いて、内覧会が催されました。当日の様子は北海道放送HBCテレビの夕方のニュース番組で6時半頃放映されましたので、ご覧になった方もいらっしゃると思います。番組でも触れておりましたが、本企画展示はこれまで総合博物館で開催された企画展示とは少々異なっておりますので以下に説明させていただきます。

本企画展示は、総合博物館のバックヤードに現在所蔵されている多様な生物標本を、北大の分類学研究者の研究史と関連づけて展示するも

のです。つまり、この10周年企画展示の主役は生物標本です。理学研究院由来の無脊椎動物と藻類、恐竜や珊瑚の化石および微化石、農学研究院関連の哺乳類や昆虫類、および陸上植物と菌類、そして水産科学研究院の魚類など、様々な標本を、乾燥、液浸、さく葉、骨格、剥製、毛皮、プレパラート等々、多様な保存形態のまま、戦前に制作されたレトロなガラス標本棚のところせましと並べ、それらの生物群を研究した研究者を文章パネルと写真で紹介します。本展示の目的は、北海道大学が札幌農学校以来掲げている4つの基本理念のうち、「フロンティア精神」と「実学の重視」の2つに合致し、その伝統と実績を誇る分類学研究の系譜を知っていただくことです。そして、博物館の第一目的が「標本の保存と継承」であることを理解していただき、さらには、分類学の意義を考え、地球上の生物多様性のすごさを垣間見ていただくという欲張りな展示です。



展示室の内部

本展示は以下2つの点でこれまでにない新しいものであると自負しております。第一に、展示室を暗くした点です。入室者には懐中電灯を手に部屋に入っていただき、展示物を照らしてご覧いただくわけです。こうすることで、探

検気分を味わいながら、展示物と一対一で対面し、じっくりとその細部までご覧いただくという趣向です。第二に、上記各分類群グループから数名ずつの現役大学院生を選び、彼ら自身に自分たちがハマった分類学および対象とする分類群を展示してもらおうというものです。彼らの展示を通じて、現在進行形で分類学を研究している若者たちの生の声を聴くことができるでしょう。

開幕初日の8月1日(土)13:00からは、総合博物館1階「知の統合コーナー」で「北大の分類学の系譜」と題する講演会が開催されました。演題と講演者は以下の通りです。「札幌農学校～北大における植物分類学研究の系譜」

(総合博物館教授・高橋英樹)、「北海道大学における昆虫学の系譜」(総合博物館准教授・大原昌宏)、「北大の魚類分類学の系譜」(総合博物館助教・河合俊郎)、「北大古生物研究の系譜」(北大名誉教授、総合博物館資料部研究員・加藤誠)、「北大における藻類分類学の系譜」(北大名誉教授、総合博物館資料部研究員・増田道夫)、「理学部における無脊椎動物の分類学の系譜」(総合博物館館長・馬渡駿介)。

なお、8月28日(金)午後には、講演会「分類学の伝統を継承する若者たち(仮題)」を開催し、分類学を研究している大学院生10人ほどに、分類学にハマった理由を話してもらいました。そして、9月25日(金)から27日(日)の3日間は、北海道大学総合博物館1階「知の統合コーナー」で大学院生に加えて学部学生たちの分類学に関する研究発表ポスターを展示し、学内外の方々に「ベストポスター賞」を選んでもいただきます。9月27日の最終日には、ポスター賞の授賞式を行い、展示を終了いたします。これらのイベントにもたくさんの方々が参加していただけますよう、総合博物館関係者一同心から願っております。

(総合博物館)



講演する河合助教



講演する大原准教授

先端生命科学研究院に寄附分野設置 －健康状態の定量化（フィールファイン）分野－

このたび、平成21年7月1日付けで、先端生命科学研究院に寄附分野として「健康状態の定量化（フィールファイン）分野」が設置されました。

本寄附分野は、フィールファイン株式会社の寄附金により設置されたもので、開設期間は、平成21年7月1日から平成24年6月30日までの3年間となっております。

本寄附分野では、「元気な心と体」「豊かで快適な生活」を実現するため、健康な人の糖鎖情報を含む生体情報を収集、評価することで健康の質・健康状態・健康度合いを定量化し、人々の生活の質（QOL）の向上に関する研究を行うとともに、この新しい分野で活躍できる若手研究者の育成を目指しております。

寄附分野教員として、兼任教授に西村紳一郎

氏（先端生命科学研究院教授）、特任助教に天野麻穂氏が就任し、研究の推進や大学院生の指導にあたっています。

7月14日（火）には、北キャンパス内のシオノギ創薬イノベーションセンターにおいて開設式が行われ、本学佐伯総長より寄附者であるフィールファイン株式会社代表取締役社長 棚橋孝江氏に感謝状が贈呈されました。開設式に引き続き、北海道大学病院長 浅香正博氏、東京大学名誉教授・東京理科大学教授・NPO法人WIN理事長 板生清氏による記念講演会が行われました。さらに、北キャンパス内のレストラン ポプラにおいて懇親会が開催され、関係各位で本寄附分野の今後の発展を祈念いたしました。



佐伯総長よりフィールファイン
（株）棚橋社長へ感謝状贈呈



講演を行う浅香病院長



講演を行う板生氏

（生命科学院・先端生命科学研究院）

スラブ研究センターで新学術領域研究の国際シンポジウム開催

7月9日(木)、10日(金)に新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」(領域代表者 田畑伸一郎)の国際シンポジウムを、2009年度スラブ研究センター夏期国際シンポジウムを兼ねて開催しました。本領域研究は昨年11月に採択されたもので、今回は、初めての国際シンポジウムとなりました。このシンポジウムは、本領域研究のなかの計画研究「持続的経済発展の可能性」(研究代表者 上垣彰・西南学院大学教授)を中心に組織されたものです。

全体のテーマは、「地域大国と持続的発展の可能性」で、マクロ経済、エネルギー、環境、格差と貧困、長期経済発展の5つのセッションが設けられました。ロシア、中国、インドおよびその他の地域大国が、今後国際社会のなかでどのような位置を占めていくのか、現在の地域大国としての地位は今後も持続可能であるのかについて、マクロ経済、エネルギー、環境、格差と貧困という4つの基本視角から検討することを目的としました。本領域研究は、研究開始から、まだ7カ月ほどしか経過していませんが、当初意図していたようなユーラシアの地域大国の2つあるいは3つを取り上げて比較するような研究がいくつか発表されたことは大きな収穫でした。そのような中で、各国のデータを比較可能な形でどのように整理していくのか、分析の結果明らかになった各国の違いをどのように解釈していくのかなど、今後の課題も明瞭になりました。

以上のような経済関連のセッションに加えて、インド、パキスタン、アフガニスタンの国境地域の問題を扱ったセッションも設けられ、これら3カ国から招かれた3人の研究者と日本人討論者、フロアーの間で熱のこもった議論が展開されました。

今回のシンポジウムには、海外から10人の研究者が招聘されました。その内訳は、南アジア(インド、パキスタン、アフガニスタン)が5名、東アジア(北京、香港)が2名、ロシア、フィンランド、英国が各1名でした。スラブ研究センターで行われた国際シンポジウムにおいて、スラブ・ユーラシア地域からの招聘者がたった1人であったというのは、おそらく初めてのことです。今回の新学術領域研究の特徴を象徴的に示すことですが、スラブ研究センターでは、これからしばらくはこの傾向が続くと見られています。

今回の国際シンポジウムは、改修後のスラブ研究センターの建物で初めて行われた大きな催しでした。参加者は、111名に達しました。改装された大会議室内では、演壇の背後にスラブ研究センターのロゴの入ったボードが立てられ、また、常時、セッションの進行が室外のスクリーンにも映し出されるなど、新しい試みもありました。大会議室横のレセプション・スペースも、受付や展示、コーヒー・ブレイクの歓談などに、有効に使われました。



レセプションで挨拶する岡田理事・副学長



講演するインドの研究者

(スラブ研究センター)

日韓ジョイントシンポジウム

2nd Symposium on Structural Analysis of Biological Macromolecules &
7th Japan-Korea Bilateral Symposium on Biological NMR

7月27日（月）から28日（火）の2日間にわたり、シオノギ創薬イノベーションセンター産学コミュニティーホールにおいて、組織的な大学院教育改革推進プログラム「融合生命科学プロフェSSIONナルの育成」（FB-station）主催の国際シンポジウムを開催しました。

本シンポジウムは、平成19年1月に9th Hokkaido University-Seoul National University Joint SymposiumのSatellite Sessionとして北大理学部で開催されたSymposium on Structural Analysis of Biological Macromoleculesの第2回であるとともに、大阪大学蛋白質研究所とソウル大学が中心となって開催されてきたJapan-Korea Bilateral Symposium on Biological NMRの第7回を兼ねています。

理学研究院の河野教授、先端生命科学研究院の出村教授、大阪大学蛋白質研究所の阿久津教授、そしてソウル大学College of PharmacyのBong-Jin Lee教授の4名がオーガナイザーとなり、韓国から10名の研究者及び大学院生を招聘して行われました。本学の大学院生5名に加えて、大阪大学、京都大学、NAIST（奈良先端科学技術大学院大学）の研究者及び大学院生8名に講演者として参加して頂き、23の講演及び18のポスター発表がありました。

1日目は75名（学外23名、学内52名）が参加

し、14の講演で活発な議論がなされました。特に京都大学の栃尾准教授のin cell NMRの発表は最新のトピックであり、その成功が祝福されました。また、大阪大学蛋白質研究所の藤原教授のクライオトロンを用いた高感度DNP測定法は今後の発展が期待される画期的な手法として注目を集めました。その後、本学の大学院生16名とソウル大学の大学院生2名による18のポスター発表がありました。夜にはレストランポプラで懇親会を開き、和やかな雰囲気ですべてのプログラムが英語で行われ、国際交流を経験する場を若手研究員や大学院生に提供することで、大学院教育の実質化に貢献できたと思います。雨天にもかかわらず、大勢の方にご来場頂きましたことを、心よりお礼申し上げます。

なお、本シンポジウムにつきまして、FB-stationのHPでもご紹介しております。下記URLをご参照頂ければ幸いです。

http://altair.sci.hokudai.ac.jp/grad/fb_station/archives/category/events

（タイトル：日韓ジョイントシンポジウム開催終了）



質疑応答の様子



シンポジウム参加者

（理学院・理学研究院・理学部）

経済学部で成績優秀者表彰式を実施

去る7月2日(木)、本学部会議室において、経済学部「成績優秀者表彰制度」及び「英語力ブラッシュ・アップ・プログラム」による表彰式が行われました。

「成績優秀者表彰制度」は、前年度に修得した成績がGPA順位の上位者で、かつ、一定単位以上の学部専門科目を履修した者のうちから、学部長が学生の模範となるような成績優秀者を選考し表彰するとともに、Dean's Listに氏名を登載し、末永くその努力と名誉を讃えることを目的としております。今年度は3年次9名、4年次10名の計19名が選考されました。

また、「英語力ブラッシュ・アップ・プログラム」は、英語力の継続的な向上を自発的に図ろうとする学生に対するインセンティブとして

教育助成金等を授与するもので、エントリーした学生全員にTOEIC受験料の半額相当の図書カードを授与し、さらに指定期間において、そのスコアの向上が特に顕著であった者に対し特別表彰するものです。今回は3年次9名が選考されました。

表彰式では、町野学部長から出席者全員に表彰状と副賞が手渡され、続いて、同学部長から賞賛と激励の言葉が述べられました。引き続き、懇親会が開催され、関係教職員及び学生のほか、新渡戸賞受賞者及びレーン記念賞受賞者も招待され、親睦を深めました。

経済学部では、今後も優秀な学生を表彰することにより、学生の学習意欲の向上を促していく予定です。



平成21年度北海道大学経済学部成績優秀者表彰式

(経済学研究科・経済学部)

経済学研究科で講演会「世界的不況とアジア金融危機の教訓」を開催

経済学研究科は在札幌米国総領事館と共催で、7月17日（金）午後5時から人文・社会科学総合教育研究棟W103において、ボストン大学国際関係学部 准教授・アジア研究センター ディレクターで、日本、東アジアに関する論文、書籍を多数執筆されている、ウィリアム W. グライムス博士による講演会『世界的不況とアジア金融危機の教訓』を開催しました。

講演では、現在の世界的経済不況と1997-98年にかけて起きたアジア金融危機を比較し、そこからどのような教訓を得られるか、そして将来においてこうした経済危機を回避するため

にどのような政策、措置が有効なのかを丁寧に、熱く語っていただきました。多くの人にこの講演を聞いていただきたいという総領事館側の熱意から希望者には日英同時通訳を提供したこともあり、開催決定が遅かったにもかかわらず、教職員、学生、研究者、官公庁関係者、企業人など、70名以上の方々に参加していただきました。

質疑応答では、出席者から英語で現状を踏まえながらのたくさんの鋭い質問があり、これに対して講師から予定時間をオーバーして丁寧な回答をいただきました。



講演するウィリアム W. グライムス博士



熱心に聞き入る参加者

（経済学研究科・経済学部）

経済学部がディベート大会に向けてイベントを開催

去る7月2日(木)の午後0時20分から人文・社会科学総合教育研究棟W103教室において、経済学部の主催による第6回ディベート大会に向けたイベントが開かれました。イベントは二部構成で、第一部のランチトークでは、昨年のディベート大会に参加した学生の体験談が語られ、第二部の講演会及び討論会では、今回の大会テーマである「グリーン・ニューディール」の現状、可能性、課題に関する報告や議論が行われました。

ランチトークでは、経済学部4年生の小笠原明彦さん、中村優介さん、吉山奈々美さんに、大会に参加したきっかけや事前の準備、当日の試合の様様や会場の雰囲気、参加を通じて得られた気づいたことや学んだこと等について、ざっくばらんに話していただきました。参加した約30名の方は、ランチをとりながらリラックスした状態で、率直かつユーモアに富む語りに聴き入っていました。

また、講演会では、環境と経済の問題に精通している本学公共政策大学院の吉田文和教授に、グリーン・ニューディールの背景や欧米での先進的な取り組みをご紹介いただいた上で、

わが国の現状や課題とその解決の道筋についてご説明いただきました。

さらに、討論会では、コメンテーターとして本学経済学研究科の小島廣光教授と西部忠教授をお迎えし、お二人のコメント及びご質問に吉田先生がお答えするかたちで議論を行っていただきました。短時間にもかかわらず、グリーン・ニューディールの実践における政府、企業、NPO間の関係のあり方、地域コミュニティの役割といった多角的かつ興味深い視点に基づく質疑が展開されました。約60名の参加者の方は、示唆に富む議論から大いに知的刺激を受けたようで、フロアとの質疑の際には、積極的に鋭い質問を投げかけていただきました。

イベント終了後、参加者の方から大変興味深く参考になったという感想が数多く寄せられています。本イベントによって、10月24日(土)に開催されるディベート大会当日に、「わが国の現状を正確に把握した上での、独創的な政策」が一つでも多く提示されましたら主催者側として幸いです。

最後に、本イベントにご協力いただいた皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。



ランチトークの様子



討論会の様子

(経済学研究科・経済学部)

平成21年度文学研究科・文学部公開講座 「老い翔る—人生の達人という夢—」が終了

文学研究科・文学部では、5月20日（水）から7月22日（水）の期間で全10回、公開講座「老い翔る—人生の達人という夢—」を開講し、20代後半から90代前半にいたる146人が受講しました。

本講座は老いについて、どれだけ前向きに受け止め、描きうるかを専門の異なる社会学、仏教学、哲学、心理学、歴史学、芸術学、日本文学、中国文学そして宗教学を専門とする9人の講師各人に課しました。講師は老いや達人をめぐる、生き生きと高齢社会に適応している地域について、また仙人や長老、老画家、老作家などの先達の事例を挙げ、また悟りや永遠について、さらには老いてから発達する知覚などについてお話ししました。

また、講義の中での質疑とは別に、毎回の質問用紙による質問や感想等も多数寄せられました。

最終回は、講師陣による質問の応答などにより討論がもたれました。講義終了後には、7回以上出席した129人の受講者に修了証書が授与されました。



最終回 望月研究科長挨拶

（文学研究科・文学部）

薬学部附属薬用植物園で「薬用植物園の見学会」を開催

薬学部附属薬用植物園（園長 小林淳一教授）では、7月11日（土）に一般市民の方、高校生、大学生、本学職員を対象とした「薬用植物園の見学会」を開催しました。また、今年度から、日本生薬学会北海道支部の共催、財団法人日本薬剤師研修センターの後援を受け、漢方薬・生薬認定薬剤師制度の実習研修会として企画致しました。

当薬用植物園は、昭和31年に大学の研究・教育用の施設として設置されたもので、北海道固有の薬用植物（ダイオウ、ゲンチアナ、ホッカイトウキ、センキュウなど）を含む1,200種余りの植物を保有しています。本来、薬用植物園では薬用植物の蒐集、試作及び主要薬用植物の育種栽培試験を主な業務としていますが、一般市民の方々にも薬用植物に親しんでいただくために、毎年一般見学会を企画しており、好評を得ています。

見学会当日はあいにくの曇り空にもかかわらず、札幌市内をはじめとして、本州、遠くは九州から薬剤師の方を含む約60名の方々にご参加いただきました。見学会は、午前10時から約2時間行われ、薬学研究院田中助教が、各薬用植物にまつわるエピソードや薬効、医薬品と薬用植物との関係について説明しました。参加者は、熱心にメモをとり、薬用植物を実際に手に取って観察したり、センキュウやハッカのにおいをかいだりして体感されていました。参加者の方々から、「庭に植えているような身近な植物が、医薬品の原料として用いられていることを聞き驚いた。植物の生育が良く、楽しめた。今後も是非このような機会を増やして欲しい。」というご意見をいただきました。

薬学部附属薬用植物園では、今後も一般市民の方々に園内を随時公開することにより、薬用植物や生薬標本に触れることの出来る機会を提供していきたいと考えています。最後に、今回の「薬用植物園の見学会」の開催に当たり、多大なご協力をいただきました。総合博物館、日

本生薬学会北海道支部、ならびに日本薬剤師研修センターの関係者の方々に深謝致します。



ヨモギ（生薬名：艾葉）についての説明を聞く見学者



自由見学時間中に熱心に植物を観察する見学者

（薬学研究院・薬学部）

函館キャンパスで「夏だ！北水ビアガーデン」を開催

試験も終わり、学事日程がひと段落した水産学部で、7月30日（木）の夕方、水産学部厚生会館前広場において北水ビアガーデン実行委員会主催による「夏だ！北水ビアガーデン」が開催されました。

例年にない梅雨空が続いた函館ですが、当日は晴天に恵まれ、気温も上昇して、ビアガーデンにはもってこいのビール日和となりました。

開始とともに多くの教職員、学生がかけつけ、一時は用意したビア樽や200脚の椅子が足りなくなるほどの盛況ぶりでした。

会場にはビーチパラソルや手造りののぼりなどが飾られ、マイクを使ったテーブルスピーチや余興が演じられるなど、楽しいひと時を過ごし、教職員学生間の交流を深めることができました。



会場の様子

(水産科学院・水産科学研究所・水産学部)

水産学部が函館港まつり「ワッショイはこだて」に参加

水産学部は、昨年度に引き続き函館港まつり（8月1日（土）～8月5日（水）開催）のパレード「ワッショイはこだて（堀川・五稜郭コース1.5km）」（8月3日（月）開催）に参加しました。

この日は、前日までの悪天候から一転して気温が上がり、絶好の踊り日和となりました。

本学部が出場した「函館いか踊り第3部」では、原学部長及び小谷事務長による先導のも

と、思い思いの仮装に身を包んだ学生や学部旗が施されたはっぴを着た教職員約150名が堀川町電停から北海道新聞函館支社前交差点までの1時間半を踊りながら練り歩きました。

軽快なテンポに乗って踊る学生・教職員に、沿道の大勢の観客からは大きな声援が寄せられ、地域に根ざす北大水産学部として祭りを大いに盛り上げることができました。



(水産科学院・水産科学研究所・水産学部)

第61回日米学生会議参加者72名が北大水産学部を訪問

8月5日（水）午前、第61回日米学生会議参加者72名（米国：36名、日本：36名）が水産学部を訪問しました。

この会議は今年で75周年を迎え、過去には故・宮澤喜一首相、H.A.キッシンジャー氏、脳科学者の茂木健一郎氏などが参加しています。今回は、「日常から世界、日米から地球へ：国際社会を見据えた対話と発信」をテーマとして、1ヶ月間国内数箇所を訪問しながら関連する多様なテーマを学び、そして討論から意見の

発信を行っています。

水産学部では、「イカの街・函館」の水産の現状と函館国際水産・海洋都市構想（長野章・はこだて未来大学教授）、そしてイカに関する最新科学（桜井泰憲・水産科学研究院教授）についての講義を聴き、その中から漁業が抱える問題、世界の食糧安全保障、現代社会と健康、環境と持続的な発展について、2つの講演を素材としてディスカッションを行いました。



講義を行う桜井教授



聴講する日米の学生

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）

高尾彰一郵便資料コレクションを大学文書館で 受贈

7月16日(木)、大学文書館では、高尾彰一名誉教授が収集された大学沿革関係郵便資料2箱を、高尾君子夫人からご寄贈いただきました。

高尾彰一名誉教授(1926~2008)は、1945(昭和20)年北海道帝国大学農学部農芸化学科に予科農類から進学し、1948(昭和23)年卒業後は応用菌学講座の教官に就き、微生物を用いたバイオテクノロジー研究・教育を推進されました。

この度、受贈した大学沿革関係郵便資料は、高尾彰一名誉教授が、北大創基百周年に際して、『北大百年史』編纂委員会委員を務めたことを契機に積極的に収集してきた、札幌農学校~北海道大学の卒業生・教職員等に関わる郵便資料コレクションです。直筆書簡(封書、葉書)、大学記念行事等の絵葉書・切手などです。

たとえば、札幌農学校第2期生の内村鑑三、新渡戸稲造直筆の葉書があり、1951(昭和26)~1952(昭和27)年「文化人切手」として郵政省が発行した2名の切手(発行初日カバー付き)も揃っています。



内村鑑三、新渡戸稲造の郵便資料

また、札幌農学校以来、教官在職25年を記念して、1908(明治41)~1916(大正5)年に作成された絵葉書もあります。絵柄には、佐藤昌介(農業経済学講座、札幌農学校1期生)、南鷹次郎(農学講座、2期生)、宮部金吾(植物学講座、2期生)、橋本左五郎(畜産学講座、8期生)、吉井豊造(農芸化学講座)の教授陣が揃っています。



上段左から橋本左五郎、吉井豊造
下段左から佐藤昌介、南鷹次郎、宮部金吾

これまで、コレクションの一部は、1976(昭和51)年9月に「農学部百年郵便資料展」として農学部で、2002(平成14)年12月に「札幌農学校関係者の郵便資料展」として遠友学舎で展示公開されてきました。今後、大学文書館では、受贈資料を分類・整理して大切に保管するとともに、閲覧・展示等により活用いたします。その第一弾として、来春、高尾彰一名誉教授に師事した忠津章氏(法学部1979年卒業)にご協力いただいて日本郵趣協会スタンプショウ(オープン切手展)に出品した後、学内で展示公開いたします。

(大学文書館)

総合博物館土曜市民セミナー「だれが標本を守るのか —研究でも教育でもない博物館の役割—」が開催される

総合博物館では7月11日（土）土曜市民セミナー「だれが標本を守るのか—研究でも教育でもない博物館の役割—」を開催しました。講師は総合博物館の持田誠 研究支援推進員です。

セミナーでは「北海道大学には分野も形態も異なるさまざまな学術標本・資料が収蔵されています。しかしこれらの中には未整理のまま眠っているもの、さらには廃棄されるものもあります。これらを整理し、良好な状態での保存と、必要な人たちへ迅速に提供できるような体

制をつくるには、研究者（教員）だけではなく、学術資料を取り扱う専門職が必要です。」と語られ、また、現在の総合博物館の資料保存の実状と、非正規職員も専門性の高い業務を担っている北大の現状、学術専門職を総合博物館へ配置することの必要性が、資料保存の仕事の一端と共に紹介されました。

セミナーには約80名の市民が参加し、熱心に受講していました。



講演する持田研究支援推進員



校舎改築で廃棄される書籍や文書の中には、資料価値の高いものも含まれている



スペースの制約で、劣悪な条件で保管せざるを得ない学術標本群

（総合博物館）

「カルチャーナイト2009」に参加“チェンバロと 星空の夕べ”開催

総合博物館では、昨年に引き続き、「カルチャーナイト2009」に参加しました。

カルチャーナイトは、文化施設などを夜間開放し、市民が地域の文化を楽しむ行事で、大人も子どもも誰でも参加することができる札幌の夏を楽しむイベントの一つです。

今年は例年より早い7月17日(金)に行われ、総合博物館ボランティア、北大天文同好会、上富良野町「一番星天文台」中西靖男氏、

札幌星仲間の皆様のご協力のもと「チェンバロと星空の夕べ」を開催しました。

前日までの雨続きで気温も低く野外のプログラムが心配されましたが、当日は札幌、富良野ともに雨は降らず、無事、全プログラムを実行できました。昨年ほどの参加者数ではありませんでしたが、それでも300名近い多くの市民が夏の一夜を楽しみました。

当日開催されたプログラムは次のとおりです。

- * 総合博物館常設展示の時間外延長公開
- * ポプラチェンバロの紹介と演奏(総合博物館ボランティア)
- * 4Dシアターでのオリジナル・プログラムの上演(総合博物館ボランティア)
- * 富良野の夜空のLIVE中継(北大天文同好会、中西靖男氏)
- * 天体望遠鏡を使った夏の夜空の観望会(札幌星仲間)



ポプラチェンバロの紹介と演奏



4Dシアター会場入口にて

(総合博物館)

第4回北海道大学教育GPセミナー「知られざる北海道写真の展覧会を作る—北大総合博物館水産科学館の資料を利用した学生の試み—」開催

総合博物館では、7月25日（土）に、1階「知の交流」コーナーにおいて、文学研究科の谷古宇尚准教授を講師に迎え、北大函館キャンパス内にある水産科学館所蔵の「疋田写真」を研究し、展覧会を準備する大学院生・学部生の活動を紹介しながら、北大総合博物館の資料を利用した学生の試みについて講演していただきました。

まず、疋田豊治氏のガラス乾板写真を用いた展覧会の制作に取り組むことになった経緯について説明いただき、続いて、「北海道開拓写真」と対比しながら、北大函館キャンパス内にある水産科学館に所蔵されている疋田豊治氏の撮影による約6,000点にも及ぶガラス乾板写真とその資料的価値についてご紹介いただきました。その後、「長亀おさかめに乗る疋田豊治」をはじめとした数々の「疋田写真」や、疋田豊治にまつわる多様なエピソードなどともに、シシャモの学名の命名者で、カレイの研究者としても知られ、明治末から昭和初期まで水産学部で教鞭をとった疋田豊治氏の経歴と人物についてお話し

いただきました。また、「疋田写真」については、その歴史資料としての価値もさることながら、写真そのものに見られる構図や被写体の形態の面白さ、疋田氏の遊び心などについての解説もなされました。最後に、ゼミの様子や展示物、展覧会の準備、さらに展覧会を作ることの意義や芸術学講座が主体となって取り組むことの意義などについて話していただきました。

参加した方々にとっては、眠ったままになっている貴重な資料を知る有意義な講演であり、スクリーンに映し出される数々の「疋田写真」に見入りながら、「疋田写真」が生まれた背景とそれらを撮影した疋田豊治という人物についての話に熱心に耳を傾けていました。質疑応答では、「利用できるよう整理してほしい」、「出版して、公開してほしい」といった熱の入った要望が出されていました。一方、総合博物館のスタッフにとっては、資料を整理し、広く活用されるよう保管するという、博物館がなすべき重要な役割が未だ十分ではないことを再認識させられる講演でもありました。



セミナーの様子



講演する谷古宇尚准教授

（総合博物館）

総合博物館でパラタクソノミスト養成講座を開催

パラタクソノミスト養成講座は、平成16年より、学術標本やサンプルを正しく同定し、整理する能力を有し、環境調査・教育において必要とされる人材である「準分類学者（パラタクソノミスト）」を養成することを目的に開催して

おり、昨年度の後半からは北海道大学教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」のもとで開催してきました。6月から7月にかけては下記の5講座を開催しました。

1. 田んぼの生物多様性パラタクソノミスト養成講座

6月13日（土）に、NPO法人田んぼの岩淵成紀氏と宮城教育大学の島野智之准教授を講師に迎え、宮城県大崎市大貫地区公民館を主会場に開催されました。午前は、ESDとSDについてお話をいただいた後、田んぼへ移動し、2班に分かれ、田んぼの畦にある植物の採集と、水中と表層の生き物の採集を行いました。

午後からは、顕微鏡とより詳細な図鑑を用いての種の同定作業に取り組みました。午前中の同定作業では、同定できなかった動植物を中

心に、顕微鏡をのぞきながら細かな部分を観察し、検討し合いながら作業を進めていきました。



田んぼの生物多様性パラタクソノミスト養成講座で採集を行う受講生

2. 昆虫パラタクソノミスト養成講座（中級：ハエ目）

6月20日（土）と21日（日）の両日、当館資料部研究員の館卓司氏を講師に迎え、北大総合博物館において開催されました。1日目の午前には、双翅目（ハエ目）の特徴、採集方法の講義を受け、その後、北大構内にて採集を行いました。午後からは、各自採集したハエやあらかじめ用意されたハエを顕微鏡で見ながら、ハエ目の特徴である平均棍の観察の後、ハエ目の中の短角亜目有弁亜節の特徴を学習しました。

2日目は、昨日採集したハエをより詳しく同定するための標本作製と、科までの同定作業を行いました。また、額囊線がくのうせんの有無の確認も行いました。



昆虫パラタクソノミスト養成講座（中級：ハエ目）で作業の指導をする館講師と受講生

3. 植物パラタクソノミスト養成講座（中級：スゲ属植物）

6月27日（土）と28日（日）の両日、神奈川県立生命の星・地球博物館学芸員の勝山輝男氏を講師に迎え、北大総合博物館において開催されました。1日目の午前は、スゲ属植物の形態についての講義を受け、スゲ属植物の形態を学びました。午後からは、スゲ属の代表的な節についての解説を受けました。その後、種の再同定に挑戦し、また、カミカワスゲ、チャシバスゲを区別する練習も行いました。

2日目の午前は、『日本のスゲ』刊行後に新たに記載されたスゲ属植物についての解説を受けました。その後、ばらと霊園近くの石狩川河

川敷、石狩川マクンベツ湿原、ハマナスの丘公園にバスで移動し、野外観察・採集を行いました。



植物パラタクソノミスト養成講座
（中級：スゲ属植物）の野外観察・採集会での
風景（マクンベツ湿原にて）

4. 植物パラタクソノミスト養成講座（初級）

7月4日（土）と5日（日）の両日、北海道大学農学院の加藤ゆき恵氏と当館の高橋英樹教授を講師に迎え、北大総合博物館において開催されました。1日目の午前は、まず、植物の分類、系統に関する講義を受け、その後、植物の標本・標本庫の役割についての講義を受け、標本庫を見学しました。午後からは、班ごとに植物の観察、採集を行い、その後、採集した植物を新聞に挟み、押し葉標本を作る作業を行いました。

2日目の午前は、『絵とき検索表』の使い方、植物の形態用語などについての解説を受けた後、博物館で用意した植物標本を使って班ごとに話し合いながら標本同定を行いました。午

後からは、1日目に採集した標本を使って、絵合わせ同定をした後、形態の確認を行いました。また、各自が同定した植物のラベルの作成や、乾燥・ラベル作成済み標本を台紙に貼付する作業も行いました。



植物パラタクソノミスト養成講座（初級）で
押し葉標本を作製する受講生

5. 植物パラタクソノミスト養成講座（中級：イネ科植物）

7月12日（日）に、桜美林大学の木場英久准教授を講師に迎え、北大総合博物館において開催されました。午前は、イネ科の用語解説と小穂の基本講義を受け、その後、イチゴツナギ亜科・イネ亜科の小穂観察を行いました。午後からは、北海道のイネ科で普通に見られる種の解説と花序の解説を受け、用意された標本を用いて、イネ科の小穂の変遷とキビ亜科の小穂観察を行いました。

イネ科植物とはどういう植物かという事を学ぶ上で、障害となっている「用語が難しい」「種類が多い」「見栄えがしない」という壁を

取り除くため、基本的な用語解説を受け、様々な種の小穂を解剖して実体顕微鏡で観察し、属や亜科の網羅的な解説を受けました。



植物パラタクソノミスト養成講座
（中級：イネ科植物）で解説する木場講師

（総合博物館）

中国医院協会訪日団が北海道大学病院を訪問

去る7月7日（火）、財団法人日中医学協会及び中国衛生部管轄の社団法人中国医院協会との合同セミナー「病院管理及び臨床薬学セミナー」により、中国各地の病院長、副病院長、薬剤科教授ら18名が本院を訪問されました。中国の病院管理者にとって日本の病院経営及び薬剤管理は深い関心事であり、今回の訪問は、中国の医療体制の改革向上を図る目的で、中国側から希望があり実現したものです。

まず御一行は、特別会議室において浅香病院長、井関薬剤部長を表敬訪問され、その後、検査・輸血部、放射線部、薬剤部及び入院病棟を視察し、各部署の責任者から、検体検査システム、MRI等放射線医療機器、薬剤管理体制や看護師の業務内容などの説明を受けられました。見学の後、札幌後楽園ホテルに移動し、浅香病院長、井関薬剤部長による講演を聴講され、日程を終えました。



浅香病院長、井関薬剤部長、早坂事務部長と
訪日団御一行

（北海道大学病院）

北海道大学病院で「ピアノ演奏会」を連続開催

北海道大学病院では、患者サービスの一環として始めた「気楽な演奏会」を3月、4月に続いて6月29日（月）に第3回演奏会、7月1日（水）に第4回の演奏会を連続して開催しました。

第3回演奏会では、医事課職員による『ピアノ』と『オーボエ』の二重奏でプロ級の演奏会を楽しんでもらい、演奏を聴いた小児の患者さんからは「楽しい演奏ありがとう」といった感謝の言葉をいただきました。

また、翌々日の第4回演奏会では、脳出血の後遺症で右半身麻痺と言語障害が残りながら全国各地の病院でピアノの演奏活動を行っている新澤隆志さんが出演し、左手のみで懸命に演奏

する姿に多くの患者さんから「元気付けられた」、「勇気もらった」等の感想が寄せられ、奏者のピアノにかかる熱い想いが伝わった感動的な演奏会となりました。

両日とも100名余りの患者さんやご家族の方々が演奏に耳を傾けていました。回数を重ねる度に聴衆が増えてきており、貴重な安らぎの場となっていることから、今後も5回、6回と継続して開催出来るよう頑張っていきたいと考えております。

（この企画は、北海道新聞の7月9日（木）付け夕刊の『まど』欄に大きく掲載されました。）



医事課職員によるピアノ演奏



新澤隆志さんによるピアノ演奏

（北海道大学病院）

「いろいろな葉っぱを探そう！ －初めてでも出来る植物採集と標本作り－」を開催

北方生物圏フィールド科学センター植物園では7月30日(木)、31日(金)に小中学生向け公開講座「いろいろな葉っぱを探そう！－初めてでも出来る植物採集と標本作り－」を開催しました。2日とも午前と午後に1回ずつ開催し、合計4回、34名の参加となりました。植物園では平成11年から冬季閉園期間の公開講座として、小学生とその家族を対象とした「冬の植物園ウォッチング・ツアー」を毎年開催していますが、児童のみを対象とした体験型の公開講座を夏季開園期間に行うのは今回が初めてとなります。

本講座のねらいは植物学の基礎とも言える植物の採集・同定・標本作製を体験してもらうことですが、ただ指導されるままに行動するのではなく、参加者各人が意識して自然の植物を観察し、その多様性に気づくことを目標としました。また、図鑑を使った同定作業を自分で行うことによって、多様な植物の名前を調べることが出来るという自信を身につけること、そして標本作製によって植物標本の意義と重要性を理解することを目指しました。

まず、倒卵形や複葉など様々な葉っぱの形が描かれたプリントを配り、自分が選んだ形の葉っぱを探してもらいました。最初はとまどい気味だった子ども達も次第に熱中し、プリントと見比べながら葉っぱの特徴を観察するようになりました。慣れてくると今まであまり注目してこなかった樹木の葉の形がどんどん区別出来るようになり、植物の多様性に驚いたりおもしろがったりしていました。



「あった！これだ！」だんだん葉っぱの形が見分けられるようになってきました

次に採集してきた植物の名前を図鑑で調べます。コツをすぐに飲み込んであっという間に数種の植物を同定してしまった子どももいれば、良く似た葉を見比べながら細かい特徴をじっくり観察して名前を見つけ出す子どもまで様々でした。

名前を調べた後は標本作りです。今回は短時間で出来るよう簡単な方法で行いました。台紙に植物をきれいに貼り付けるのが一番難しく、スタッフに相談したり手伝ってもらったりしたものの、最後には参加者全員がしっかりとした標本を完成させていました。



「うーん、難しいなあ」
標本作りにも熱がはいります

当日は天候にも恵まれ、公開講座終了後に家族と一緒に園内でお弁当を広げる参加者もあり、植物園を十分に楽しんでいました。この講座を通じて植物に興味を持つ子どもが増えれば幸いです。また今日の参加者の中から自分で植物採集と標本作りにチャレンジしてみようという子どもが出てくればうれしい限りです。

(北方生物圏フィールド科学センター)

ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ ～「身近なくだものの品種改良の科学」を開催

7月25日（土）に日本学術振興会の支援を受けて「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」【身近なくだものの品種改良の科学】を開催しました。これは、科学研究費補助金による研究成果をもとに、小学校高学年から高校生を対象に、体験的なプログラムで大学の最先端の科学に触れてもらおうという企画です。

私たちは、その場を北方生物圏フィールド科学センター・生物生産研究農場・余市果樹園に設定しました。果樹園では研究によって生み出されたハスカップが栽培されています。科学研究費補助金の対象となっている研究は、ハスカップの形質改良に関するものです。この研究の対象であるハスカップを新鮮なまま木から直接収穫してもらい、実際に食するところから研究を理解してもらおうと考えたのでした。生のハスカップの収穫期は年に2～3週間ほどで、この貴重なタイミングを逃さないように開催日を設定しました。

高校生を対象に募集を行いました。中学生、小学生からも熱い要望があり、応募者全員を受け入れることにしました。余市果樹園で開会を宣言し、まずは果樹園の散策を行いました。技術職員の丁寧な解説が好評で、たくさんの質問を受けながらハスカップ園まで進みました。ハスカップ園では、実際の果実評価の実験を行いました。糖度計による果実評価を課題とし、ハスカップの味の広がりを感じてきたと思います。その後、果樹園の管理に重要な働く機械の実演、サクランボの味覚体験、ブドウ棚の下での昼食タイム、共同研究のパートナーである「きのとや」から提供を受けたハスカップ菓子の試食会、接ぎ木体験、荒木教授による説話などのプログラムをこなしました。晴れて全員が未来博士号の授与を受け、アカデミアの高揚をまといながらの散会となりました。

このプログラムには技術職員、事務職員、学生の無私の貢献が甚大だったことを留めておかなければなりません。そして若い生徒の中に何かしらのサイエンスのタネが芽生えたらとした

ら、このプログラムは成功です。参加者の皆さんとまたいつか会いたいと願っています。



糖度計を測定しています。見えるのは未来。



果樹園の必需品、高所作業車を体験！
意外に高く感じて慣れないと怖いです。



未来の博士たちと記念撮影。お疲れさまでした。

(北方生物圏フィールド科学センター)

附属図書館でEU i (EU情報センター) セミナーを開催

6月25日(木)及び26日(金)の2日間、附属図書館において「第30回EU i セミナー」を開催しました。北海道大学EU情報センター(附属図書館に設置)が当番館としてのセミナー開催は20年ぶり2回目であり、第30回という節目でもありました。

1963年以降、欧州委員会は世界に約500のEU情報センター(European Info = EU i)と100の寄託図書館(Depositary Library = DEP)を設置しており、日本国内には19校の大学にEU i、国立国会図書館にDEPが設置されています。北海道大学EU情報センターは国内で8番目(1982年)に設置されました。その目的は、欧州連合(EU)について一般の人への広報、EUから送られてくる様々な図書、雑誌やパン

フレットなどの管理、貸し出しや配布です。また、それらの資料を用いて利用者からの質問にも対応しています。

EU i セミナーとは、EU i、DEPの担当者が毎年1回、活動報告や情報提供・交換、研究発表などをして研修、交流する機会です。今回のセミナーでは、レファレンス事例報告や各センターで効果的な展示や広報を行うためのグループワーク等を通して、活発で積極的な意見が交わされ大変有意義な内容となりました。

2日目のプログラムでは、本学公共政策大学院鈴木一人准教授に「EUの対外的影響力：グローバル市場におけるスタンダード設定」と題してご講演いただき、EUについてさらに理解を深める貴重な機会となりました。



レファレンス事例報告



活動報告



グループワーク

(附属図書館)

お知らせ

共済組合員証等の検認

共済組合員証，遠隔地被扶養者証，高齢受給者証，特定疾病療養受療証，限度額適用認定証，船員組合員証及び船員被扶養者証の検認を**本年9月中**に実施します。

ついては，現在使用している各組合員証等は，検認を受けなければ本年10月1日以降使用することができませんので，ご注意願います。

検認手続き等の詳細については，各部局等の共済事務担当にお問い合わせください。

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

告示

告 示

北海道大学告示第3号

北海道大学共同利用施設等管理規程（昭和38年海大達第3号）第2条の規定に基づき，共同利用施設「理工系放射性同位元素総合研究室」の指定を解除する。

平成21年7月31日

北海道大学総長 佐 伯 浩

寄稿

北大は21世紀のランドグラント大学を目指せ

1959(昭和34)年農学部農芸化学科卒 今田 哲

(元 武田薬品工業㈱理事, 元 奈良先端科学技術大学院大学教授・評議員,
現在 京都大学大学院工学研究科非常勤研究員)

農学部農芸化学科の卒業50年の同期会が持たれたのを機に2009年6月25日北大を訪問した。同期の但野利秋名誉教授などの配慮で佐伯浩総長, 上田一郎農学部長, 馬渡俊介北海道大学総合博物館長との話し合いの場が設けられた。お陰で単なるセンチメンタルジャーニーに終わらせることなく, めいめい50年ため込んだ北大に寄せる思いを語り, 建設的にホームカミングの時を過ごすことができた。

1876年(明治9年)に札幌農学校として発足後, 東北帝国大学農科大学(1907年~), 北海道帝国大学(1918年~), 北海道大学(1947年~)と歩んできた北大は, 2004年に国立大学法人北海道大学として新しいスタートを切っている。佐伯総長の口から「差別化」という言葉が聞かれ, 独立行政法人になって初めて選出された総長の並々ならぬ決意を感じるとともに, 大学にとって大きなチャンスが訪れていることを知った。

もとより, 「差別化」は同業他社との競争を勝ち抜き, 競合優位を確立する方策を表す企業用語である。製品やサービスの質の優位性だけではなく, 企業イメージを含めた多面的なブランド性が差別化の要素になる。札幌農学校の初期の卒業生が日本の文明化に果たした大きな足跡は, ボーイズ, ビー アンビシャスという言葉とともに最大のブランド力であった。また, 国内の大学の中で常にトップクラスに挙げられる自然豊かなキャンパスも北海道自身の魅力とともに強い武器であった。これらは比較的表層的な「あこがれ」を生んできたことは間違いない。われわれ卒業生にとって道外出身者の比率

は常に関心の的である。例えば, 当日の会合に集った16名の同期生の出身高校の所在は北海道8名, 東京4名, 関西圏2名(京都府と兵庫県), 九州圏2名(福岡県と長崎県)で道内外の比率はちょうど半々であったが, 道外出身者の比率50%確保は多くの北大卒業生の深層的な願いであろう。しかし, 上記のあこがれ要因だけでこれを達成することは今やほとんど不可能に近いと思われる。

京都大学はノーベル賞受賞者を最も多く輩出したことをブランド戦略にしている。昨年のノーベル賞に名古屋大学関係者が3名いたことで同大学のブランド名は一気に高まった。益川敏秀教授を擁する京都産業大学は入学者が急増した。ブランド性という点からだけでなく, 製品やサービスにおける競合優位確保という点からもノーベル賞受賞者の輩出に向けた努力を北大の目標にしていきたい。

農芸化学科同期の浅野孝カリフォルニア大学名誉教授は2001年に水のノーベル賞と言われるストックホルム水賞を受賞され, 北大の名声に貢献しているのはわれわれの誇りであるが, 同氏はアメリカ国籍になった今も北大のために人一倍大きな声で発言しておられる。筆者はその声に誘われるまま, 6月25日のプログラムの合間を縫って北大のブランドアップ戦略について意見を交換した。その中から出てきた一つの方策が北大の出自がランドグラント大学であることを利用しようという考えである。

ランドグラント大学(land-grant university)は土地付与大学と訳されることもある。アメリカ全土に所有した連邦政府の土地を州政府に無償で供与し, その土地に大学を建てて農学, 軍事学及び工学を教育し, その大学がある州の発展に貢献させることを目指したのである。この方向を生み出したモリル法は南北戦争

中の1862年に制定されたもので、アメリカ高等教育の歴史を変えたといわれるくらいの効果があったとされている。北大の前身である札幌農学校が誕生したのは1876年でモリル法制定14年後のことであった。札幌農学校を創設するためにマサチューセッツ大学の学長現職のまま招聘されたクラーク博士が、教育行政に携わる者の一人としてランドグラント大学をモデルにしなかったわけがないと考えるのは自然であろう。しかしながら、そのことに触れた記述を筆者は知らない（日本の大学では琉球大学が1950年、米国のland-grant universityの一つであるミシガン州立大学の指導を受け設立されたとされている）。

ところで、なぜランドグラント大学であることが北大のブランドアップ戦略と結びつくのか。いま大学には地域科学技術戦略の中核としての機能と、国際的な環境の中での強さの二つが求められている。我が国の新しい憲法ともいえる科学技術基本法が1995年に制定され、それを具体化するために科学技術基本計画が3次（第1次 1996年～、第2次 2001年～、第3次 2006年～）にわたって実施されてきたが、その中で強調の度合いを深めているのが地域科学技術施策である。文部科学省においても「地域の研究開発に関する資源やポテンシャルを活用することにより、我が国の科学技術の高度化、多様化、ひいては当該地域における革新技術・新産業の創出を通じた我が国経済の活性化が図られるものであり、その積極的な推進が必要」として、地域における科学技術振興を重点施策の一つとして取り組んでいる（http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/chiiki/index.htm）。地域を活性化して国の経済の興隆につなげようとするその考え方はまさにモリス法の本質と共通している。

学生時代、指導教官であった応用菌学教室の佐々木西二教授の下にトラピスト修道院の尼僧がチーズ作りの指導を求めて来訪されたのをよく見かけた。その先代の半沢洵教授は納豆普及会を立ち上げて国民の健康増進と産業の振興を図られた。北海道が日本有数の米生産地になったのは土壌肥料学を教わった石塚喜明教授らの地元への真摯な思いによるものであろう。その石塚先生も前出の半沢先生も遠友夜学校で地域の教育の機会に恵まれない青少年の教育に携わ

られたと聞く。50年前はランドグラント大学としての建学の精神が身近に息づいていた。その精神が時と共に薄れて行くのは止むを得ないとしても、捨て去るにはあまりにももったいない。独法化で各大学が特徴を打ち出そうとしている今、ランドグラント大学というアイデンティティーが北大関係者の間で共通の認識になれば、昨今の国の施策との整合性の面からも、それは立派な差別化戦略の柱になるように思われる。

もう一方の国際的な環境の中での大学の強さはどのように達成しうるのか。最も望ましいのは「居ながらの国際化」、「内なる国際化」であろう。我が国の優れた研究成果が海外で評価されて初めて国内でも再評価されたという例は枚挙にいとまがない。国内には国際的な絶対基準で判断する下地がなかったのである。世界のトップクラスの科学集積地や大学には世界各地から俊英が自然に集まり、淘汰され、国際的な科学コミュニティが形成されている。また、そこから国内外各地に散っていった学者仲間と英語という共通言語によって電話で論文などに公表される前のゼロ次の研究情報を日々交換するネットワークが形成されている。これが「居ながらの国際化」であり「内なる国際化」なのである。北大の目指す21世紀のランドグラント大学もこのような姿であるべきであろう。そのためには国際語でのコミュニケーション能力を北大のコミュニティに定着させることが是が非でも必要となる。

21世紀の大学の使命とは何かということを出発点に考えるのも重要である。現在地球が抱える課題は、世界人口の増加と食の欧米化にともなう「食糧問題」、化石資源の消費による「地球温暖化問題」と枯渇に伴う「エネルギー問題」、さらに地球温暖化や人口増加に付随した「水問題」に集約される。これらの解決を目指す融合領域の形成を北大の目指す21世紀のランドグラント大学の柱に据えるべきである。どのような融合をどのようなリーダーシップの下で行うかが計画の成否を決めるであろう。選択と集中という民間企業で行なわれている方法は大学文化との相性は悪いかもしれないが、それも必要になるであろう。そして一旦方針が決まればじっくりと継続する覚悟も必要となる。

50年ぶりに訪れた母校の構内を隈なく散策し

た。キャンパス北西部の新しい恵迪寮周辺の森の豊かさに圧倒され、これぞ北大が持つ宝物だと思った。学生の時に北欧を舞台とした小説を好んで読んだ。描写されている情景が北海道の自然の中で身近に想像できたからである。佐伯総長がロシアや東欧から留学生を集めて、差別化を図る一助にしたいと言われた。大賛成である。札幌の自然はたぶんそれらの地域やバルト3国に近いだろう。ロシア、東欧、北欧の若者たちにとって勉学する自然環境が故郷に近いというのは多分大きな魅力になると想像する。

魅力づくりの原点は宝探しである。ランドグランド大学としてのアイデンティティーは宝の一つになると信じているが、まだ原石である。磨いて見事に輝く宝の石にしていきたい。2025年に学生100人のうち30人が道産子、40人が内地出身者、10人が北部ヨーロッパ出身者、10人がアジア出身者、10人がその他地域の出身者になっていれば、北大は日本一のキャンパスを生かした日本一の大学の下地作りに成功したと言えるのではないだろうか。

レクリエーション

平成21年度北大山岳会のハイキング

赤岩山 (371m) —自然探勝路西赤岩コース—

5月23日(土) 参加人数11名

今にも泣き出しそうな空の下を小樽へ向け出発しました。天気予報は雨です。昨秋に来た探勝路の続きで今回はオタモイ海岸への道を辿るのです。赤岩峠の駐車場に着くと霧雨になりました。この天気では空と海の青さは望めませんが、春の山を歩いてみることにします。幸いなことに植物に詳しい参加者から、オクエゾサイシンの花を教えてください、可憐な濃い紫色の花を見ることが出来ました。この花は「春の妖精」ともいわれるヒメギフチョウの食草なのだそうです。赤岩山への登りを過ぎると後は下りが続きます。やがて道は神社の境内へ出ました。雨も止まないでオタモイまで行くのはあきらめ、ここから戻る事にしました。神様の軒先をお借りして雨をしのぎ、昼食にします。この神社は出羽三山神社小樽教会といって祠の裏にミニパークゴルフ場もありました。小樽市の広報紙によると、個人的に建立されたもので地域住民の憩いの場となっているようです。帰り道ものんびりとウグイスとカッコウの声を聞きながら歩きます。赤岩山の展望台では雨で

視界が悪いはずなのに、霧の絶壁に吸い込まれそうで、お尻がむずむずしました。しかしこれを幻想的な風景と感じたロマン派も多かったようです。雨でどうなることかと思いましたが、意外に充実した1日となりました。

(コースタイム) 保健学科 8:30 - 赤岩峠 10:30 - 赤岩山 11:10 - 神社着 12:00 - 神社発 12:50 - 赤岩峠 14:40 - 小樽手宮温泉 - 保健学科 17:30



出羽三山神社小樽教会

頂白山（480m）ーフルーツ街道コースー

7月4日（土）参加人数16名

北海道も果物がおいしい季節になりました。今回は仁木町の頂白山に向かいます。曇り空ながら、天候はまずまずです。仁木駅を過ぎ、線路と立体交差した先で勝浦農園に向かい、フルーツ街道を越えたところが登山口です。さあ出発です。雨に洗われた新緑の樹上からウグイスの歌が聞こえ、心に穏やかなときが流れます。道は緩やかな登りで、急なところはありません。突然大きな鳥が飛び立ちました。鷹でしょうか、鷲でしょうか。やがて登山道はきれいに整備された道となり、山頂への分岐点に着きます。整備された登山道は下りながら直進し、広場を経て三角点のある山頂に至ります。もう一方は左に分岐し最高点に至ります。私たちはまず最高点に向かいました。急登の細い山道を登り、ツタウルシを避けながら進むと山頂です。岩の露出した狭い山頂には、徳利が供えてありました。楽しい昼食です。お菓子を分け合いながら、会話が弾みます。山頂からは、うっすら

と霞がかかった幻想的な山肌が望めました。昼食後、三角点に向かいます。途中の広場にはワラビがいっぱい。私たちも家族のためにワラビをとりました。三角点では、頂白山の看板を持って記念写真です。視界も開け、仁木町の町が広がっていました。帰りは勝浦農園でサクラランボを買いました。縁起の良い鶴亀温泉で汗を流し、無事、春季登山を終えました。

（コースタイム）保健学科 9:00 - 登山口 11:25 - 山頂（本峰）着12:55 - 山頂発13:30 - 三角点13:40 - 登山口着14:50 - 勝浦農園 - 鶴亀温泉16:00 - 保健学科18:40



頂白山（三角点）山頂

（北大山岳会）

教職員テニス大会の開催

職員硬式庭球同好会主催による学内ダブルス大会が7月11日(土)に、低温科学研究所・工学部の各コートで行われました。

参加者は総勢38名で、結果は次のとおりです。

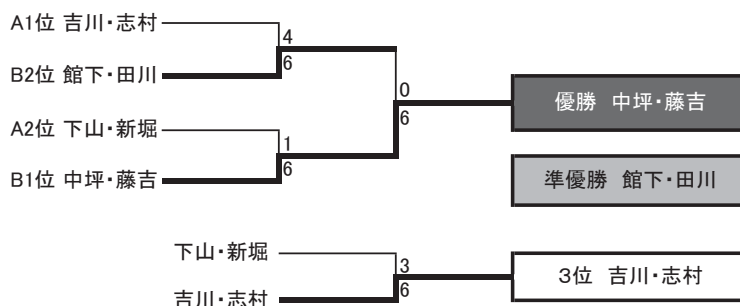
【男子A級】平成21年7月11日(土) 会場：低温研コート

Aブロック

	吉竹(図) 野中(図)	下山(低) 新堀(低)	吉川(C) 志村(工)	佐藤(工) 山田(理)	勝：負 (ゲーム数)
1. 吉竹 忍(図) 野中 雄司(図)		0-6 ○	2-6 ×	7-6(4) ○	1-2 3
2. 下山 宏(低) 新堀 邦夫(低)	6-0 ○		0-6 ×	6-4 ○	2-1 2
3. 吉川 孝三(CEED) 志村 和紀(工)	6-2 ○	6-0 ○		6-1 ○	3-0 1
4. 佐藤 博(工) 山田 杉一(理)	6-7 ×	4-6 ×	1-6 ×		0-3 4

Bブロック

	館下(農) 田川(事)	服部(触) 安西(文)	藤吉(低) 中坪(低)	小田桐(事) 清水(工)	勝：負 (ゲーム数)
1. 館下 秀敏(農) 田川 諭(事)		6-0 ○	3-6 ×	6-3 ○	2-1 2
2. 服部 英(触) 安西 眞(文)	0-6 ×		2-6 ×	6-4 ○	1-2 3
3. 藤吉 康志(低) 中坪 俊一(低)	6-3 ○	6-2 ○		6-1 ○	3-0 1
4. 小田桐 誠(事) 清水 泰貴(工)	3-6 ×	4-6 ×	1-6 ×		0-3 4



男子A級優勝
中坪・藤吉ペア

【男子B級】 平成21年7月11日（土） 会場：工学部コート

	平田（電） 藤田（低）	佐藤（理） 鈴木（理）	中野渡（低） 中鉢（低）	大嶋（北方） 柿崎（北方）	清水（工） 山田（工）
1. 平田 康史（電） 藤田 和之（低）		6 - 2 ○	6 - 0 ○	6 - 0 ○	3 - 6 ×
2. 佐藤 久志（理） 鈴木 敦生（理）	2 - 6 ×		1 - 2 (def) ○	6 - 1 ○	1 - 6 ×
3. 中野渡拓也（低） 中鉢 健太（低）	0 - 6 (def) ×	2 - 1 (def) ×		6 - 1 ○	0 - 6 (def) ×
4. 大嶋 栄喜（北方） 柿崎 有紀（北方）	0 - 6 ×	1 - 6 ×	1 - 6 ×		1 - 6 ×
5. 清水 康行（工） 山田 朋人（工）	6 - 3 ○	6 - 1 ○	6 - 0 (def) ○	6 - 1 ○	

優勝 清水・山田
準優勝 平田・藤田
3位 佐藤・鈴木

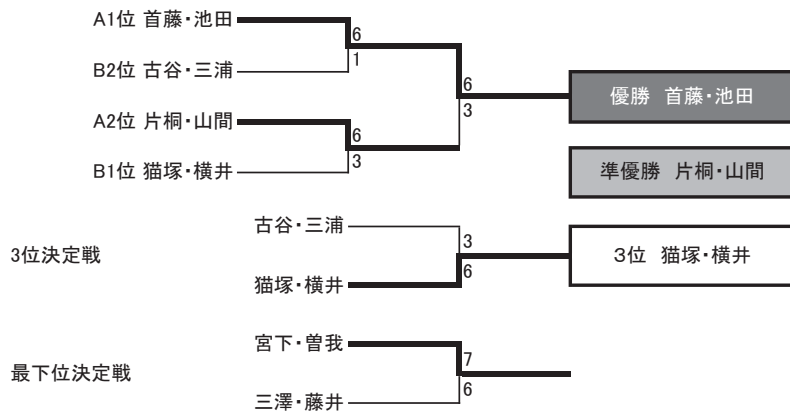
【女子A級】 平成21年7月11日（土） 会場：工学部コート

Aブロック

	片桐（囧） 山間（薬）	宮下（獣） 曾我（先端）	首藤（獣） 池田（ス）	勝：負 （ゲーム数）
1. 片桐 和子（囧） 山間久美子（薬）		5 - 7 ×	6 - 4 ○	1 - 1 2 (11/22=0.50)
2. 宮下こずえ（獣） 曾我 和実（先端）	7 - 5 ○		1 - 6 ×	1 - 1 3 (8/19=0.42)
3. 首藤 佳子（獣） 池田 和絵（ス）	4 - 6 ×	6 - 1 ○		1 - 1 1 (10/17=0.58)

Bブロック

	三澤（薬） 藤井（医）	猫塚（事） 横井（囧）	古谷（囧） 三浦（囧）	勝：負 （ゲーム数）
1. 三澤 陽子（薬） 藤井恵美子（医）		2 - 6 ×	6 - 4 ○	1 - 1 3 (8/18=0.44)
2. 猫塚 和美（事） 横井 有紀（囧）	6 - 2 ○		3 - 6 ×	1 - 1 1 (9/17=0.529)
3. 古谷久美子（囧） 三浦 千穂（囧）	4 - 6 ×	6 - 3 ○		1 - 1 2 (10/19=0.526)

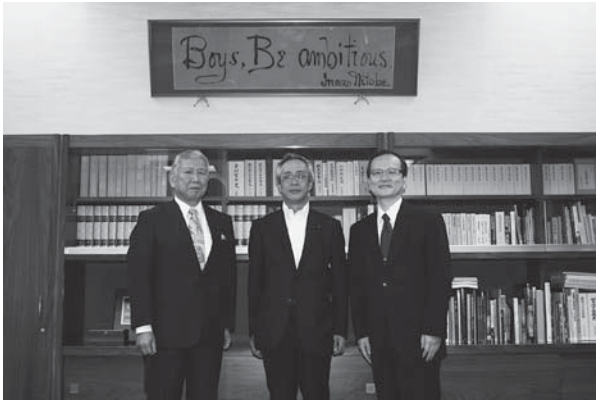


（職員硬式庭球同好会）

表 敬 訪 問

〈国内〉

月 日	来 訪 者
21. 8. 5	三菱重工業株式会社 原動機事業本部 横浜製作所 所長 加藤 敏彦 氏



三菱重工業株式会社

(総務部広報課)

〈海外〉

月 日	来 訪 者	目 的
21. 7.10	駐日ネパール連邦民主共和国大使館 ガネシュ・ヨンザン・タマン 特命全権大使	両国の教育に関する懇談
21. 7.15	ガジャマダ大学 (インドネシア) Chairil Anwar 数学・自然科学部長	国際交流に関する打合せ
21. 7.23	高麗大学校師範大学 (韓国) 姜 善甫 学長	部局間協定の調印及び両大学の交流に関する懇談
21. 7.23	在セビリヤ (スペイン) 日本名誉総領事 Jose Maria Cabeza Lainez 氏 ウエルバ大学 (スペイン) Enrique Bonson 副学長	両国の教育に関する懇談
21. 7.28	華東理工大学 (中国) 于 楊曜 法学院副院長	法学研究科学生交流イベント参加



駐日ネパール連邦民主共和国大使館
ガネシュ・ヨンザン・タマン
特命全権大使 (写真右)



ガジャマダ大学 (インドネシア)
Chairil Anwar 数学・自然科学部長 (写真右)

表 敬 訪 問



高麗大学校師範大学 (韓国)
姜 善甫 学長 (右から5人目)



在セビリア (スペイン) 日本名誉総領事
Jose Maria Cabeza Lainez 氏 (左から3人目),
ウエルバ大学 (スペイン)
Enrique Bonson 副学長 (右から2人目)



華東理工大学 (中国)
于 楊曜 法学院副院長 (奥側左から2人目)

(学術国際部国際企画課)

諸会議の開催状況

役員会 (平成21年 7月13日)

議 案・顧問弁護士の選定について

- ・ 新型インフルエンザの発生に伴い本学が講じた措置により出張等を中止した者のキャンセル料等の取扱いについて

協議事項・全学運用教員の措置について

- ・ 「組織及び業務全般の見直し内容を踏まえた検討状況及び中期目標・中期計画等への反映状況」について
- ・ 北海道大学附属図書館北分館の名称変更について
- ・ 工学研究院の設置について
- ・ 「北海道地区FD・SD推進協議会」について
- ・ 公益通報の処理及び公益通報者の保護等に係る体制について

報告事項・理事の交代について

- ・ 世界大学ランキングについて
- ・ 「部局の第二期中期目標・中期計画」の今後の扱いについて
- ・ 連携講座連携先機関の名称変更について
- ・ 共同利用・共同研究拠点の認定について
- ・ 北海道大学高大連携授業聴講型公開講座の実施について
- ・ 創成研究機構研究部特定研究部門プロジェクトの決定及びプロジェクト研究部門オープンラボラトリーの利用許可について
- ・ 平成21年度産業技術研究開発施設整備費補助金の採択について
- ・ 平成21年度国際化拠点整備事業（グローバル30）の審査結果について
- ・ （財）北海道科学技術総合振興センターからの土地使用料の減額依頼について
- ・ 大学機関別認証評価に係る訪問調査について
- ・ 中期目標期間評価における教育研究評価に係る現況分析の単位について
- ・ 障害者の雇用状況等について

教育研究評議会 (平成21年 7月22日)

議 題・北海道大学附属図書館北分館の名称変更について

- ・ 工学研究院の設置について
- ・ 「北海道地区FD・SD推進協議会」について
- ・ 北海道大学共同利用施設「理工系放射性同位元素総合研究室」の指定解除について
- ・ 大学間交流協定の新規締結について
- ・ 名誉学位の授与について
- ・ 公益通報の処理及び公益通報者の保護等に係る体制について

報告事項・理事の交代について

- ・ 連携講座連携先機関の名称変更について
- ・ 共同利用・共同研究拠点の認定について
- ・ 創成研究機構研究部特定研究部門プロジェクトの決定及びプロジェクト研究部門オープンラボラトリーの利用許可について
- ・ 平成21年度産業技術研究開発施設整備費補助金の採択について
- ・ 平成21事業年度に係る業務実績に評価に関するヒアリングについて
- ・ 大学機関別認証評価に係る訪問調査について
- ・ 中期目標期間評価における教育研究評価に係る現況分析の単位について
- ・ 平成20年度決算について

役員会 (平成21年 7月27日)

議 題・北海道大学附属図書館北分館の名称変更について

- ・ 工学研究院の設置について
- ・ 「北海道地区FD・SD推進協議会」について
- ・ 公益通報の処理及び公益通報者の保護等に係る体制について
- ・ 教員の勤務延長に係る選考について

協議事項・全学運用教員の措置について

諸会議の開催状況

- ・新勤務評定制度の導入について
- ・就業規則関連規程の制定及び一部改正について
- 報告事項・人材育成本部外部資金プロジェクト「イノベーション創出若手研究人材養成」および「女性研究者養成システム改革加速」の採択について
- ・最先端研究開発支援プログラムへの申請について
- ・国際活動評価ならびにESD大学評価事業の実施について
- ・構内入構のためのパスカードのIC化について
- ・平成21年度補正予算事業「教育研究高度化のための支援体制整備」について
- ・平成20年度重点配分経費決算について
- ・平成20年度特別経費（継続事業）の進捗状況について
- ・大学サイエンスフェスタについて
- ・平成20事業年度の業務実績評価に関する質問事項への対応について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。

学 内 規 程

北海道大学情報基盤センター教育情報システム学内共同利用委員会規程の一部を改正する規程
(平成21年7月3日海大達第147号)

北海道大学情報基盤センター情報ネットワークシステム学内共同利用委員会規程の一部を改正する規程

(平成21年7月3日海大達第148号)

北海道大学情報基盤センター教育情報システム学内共同利用委員会及び北海道大学情報基盤センター情報ネットワークシステム学内共同利用委員会の委員長について、副センター長からセンター長が指名する者をもって充てることに改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学東京オフィス利用規程の一部を改正する規程

(平成21年7月16日海大達第149号)

本学の東京オフィスの利用に関し、利用時間の特例として、午前8時から午前10時までの時間帯についても利用を認めること、並びに利用日及び利用時間の特例として利用を認める施設にフリースペースを含めることとするに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学寄附金規則の一部を改正する規則

(平成21年7月27日海大達第150号)

平成21年4月1日に、地方公共団体の財政の健全化に関する法律(平成19年法律第94号)が施行され、同法附則第3条により、地方財政再建促進特別措置法が廃止されたことに伴い、所要の改正を行ったものです。(平成21年4月1日適用)

北海道大学留学生センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成21年7月27日海大達第151号)

平成21年度より、留学生センターに講師を採用したことに伴い、留学生センターの講師を、運営委員会及び当該運営委員会に置く教員会議の構成員とすることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

(平成21年8月1日海大達第152号)

国立大学法人北海道大学公印規程の一部を改正する規程

(平成21年8月1日海大達第153号)

北海道大学附属図書館規程の一部を改正する規程

(平成21年8月1日海大達第155号)

北海道大学附属図書館北分館規程の一部を改正する規程

(平成21年8月1日海大達第156号)

北海道大学附属図書館利用規程の一部を改正する規程

(平成21年8月1日海大達第157号)

平成21年8月1日付けで、本学附属図書館の分館である「北分館」について、名称を「北図書館」に改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス使用料等規程の一部を改正する規程

(平成21年8月1日海大達第154号)

本学のインターナショナルハウスのうち、桑園国際交流会館E棟及び南新川国際交流会館について、寄宿料の日額を定めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

人 事

平成21年 7 月 2 日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (転出) 財務省	菅 正 広	大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授

平成21年 7 月 6 日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員】 北海道大学病院診療支援部臨床検査技師	菊 地 玲	採用

平成21年 7 月13日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【役員】 (転出) 文部科学省	嶋 貫 和 男	理事 (事務局長)
【教授】 (転出) 文部科学省大臣官房付	中 村 雅 人	大学院工学研究科教授

平成21年 7 月14日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【役員】 理事 (事務局長) (期間:平成23年 3 月31日まで)	高 杉 重 夫	文化庁文化財部長
【副研究科長・副研究院長等】 創成研究機構副機構長 (期間:平成23年 3 月31日まで)	小 川 壮	大学院工学研究科教授
【教授】 大学院工学研究科教授	小 川 壮	文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課長

平成21年 7 月15日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (辞職)	蝦 名 康 彦	北海道大学病院助教
【技術職員】 (辞職)	田 原 綾 子	北海道大学病院看護部看護師

平成21年 7 月16日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員】 北海道大学病院診療支援部理学療法士	小 熊 英 敏	採用

平成21年 7 月17日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授	寺 田 文 彦	採用

平成21年 7 月21日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【係員】 (出向) 独立行政法人日本学術振興会	表 山 尚 史	財務部主計課

平成21年7月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教務職員】 (辞職)	庄 子 香 織	創成研究機構教務職員
【技術職員】 (辞職)	川 村 真 由 橋 本 里 紗	北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師
【嘱託職員】 (辞職)	高 田 義 治	北海道大学病院医事課

平成21年8月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【部局長・施設長等】 附属図書館北図書館長 (期間:平成23年3月31日まで) 大学院医学研究科附属動物実験施設長(兼務)	宇都宮 輝 夫 安 田 和 則	附属図書館北分館長 大学院医学研究科教授
【教授】 大学院理学研究院教授	高 橋 幸 弘	東北大学大学院理学研究科准教授
【准教授】 大学院法学研究科准教授	中 川 晶比兒	採用
【講師】 大学院理学研究院講師	保 田 諭	採用
【助教】 大学院歯学研究科助教 大学院獣医学研究科助教	LI MIN QI 細 谷 謙 次	採用 採用
【係員】 北海道大学病院経営企画課 【技術職員】 創成研究機構学術専門職 北海道大学病院看護部看護師	大 坪 智 子 守 真奈美 金 丸 裕 子	北海道大学病院医事課 創成研究機構教務職員 採用

新任理事紹介

平成21年 7月14日付

理事・事務局長に

たかすぎ しげお
高杉 重夫 氏



平成21年 7月13日限り
で嶋貫和男理事・事務局長が転出され、その後任として高杉重夫氏が発令されました。

任期は、平成23年 3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日	昭和29年 7月 2日
昭和53年 4月	文部省大学局学生課
昭和61年 4月	大分県教育庁指導第一部社会教育課長
昭和63年 7月	総務庁人事局参事官補佐
平成 2年 7月	文部省体育局体育課課長補佐
平成 4年 7月	文部省体育局体育課体育企画官
平成 5年 7月	文部省高等教育局医学教育課 大学病院指導室長
平成 7年 4月	文部省大臣官房総務課広報室長
平成 8年 8月	垂水市助役
平成10年 4月	文部省体育局競技スポーツ課長
平成12年 3月	文部省体育局学校健康教育課長
平成13年 7月	文部科学省スポーツ・青少年局 企画・体育課長
平成15年 1月	文部科学省スポーツ・青少年局 総括官
平成16年 7月	(独)日本スポーツ振興センター 理事
平成20年 7月	文化庁文化財部長
平成21年 7月	同上退職(役員出向)

新任教授紹介

平成21年 7月14日付

工学研究科教授に おがわ つよし 小川 壮 氏
 (工学系教育研究センター
 国際性啓発教育プログラム開発部)



生年月日
 昭和37年 1月 2日
 最終学歴
 京都大学大学院工学研
 究科修士課程修了
 (昭和61年 3月)
 工学修士(京都大学)
 専門分野
 科学技術政策

平成21年 7月17日付

公共政策学連携研究部附属公共政策学
 研究センター教授に てらだ ふみひこ 寺田 文彦 氏
 (公共政策研究部門)



生年月日
 昭和40年 7月29日
 最終学歴
 東京大学法学部卒業
 (昭和63年 3月)
 専門分野
 公共経営・地方行財政改革

平成21年 8月 1日付

理学研究院教授に たかはし ゆきひろ 高橋 幸弘 氏
 (自然史科学部門宇宙惑星科学分野)



生年月日
 昭和40年 6月 2日
 最終学歴
 東北大学大学院理学研
 究科地球物理学専攻博
 士課程中退(平成 7年
 3月)
 博士(理学)(東北大学)
 (平成 9年 3月)
 専門分野
 超高層大気物理学,
 大気電気学,
 惑星大気物理学

訃 報

名誉教授 こばやし はるお 小林 晴夫 氏(享年89歳)



名誉教授 小林晴夫氏は平成21年6月29日午前9時44分、敗血症のため満88歳でご逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、大正10年2月23日、東京都神田に生まれ、昭和19年9月北海道帝国大学工学部燃料工学科を卒業され、昭和22年4月同大大学院後期中退、同時に工学部理学第二講座に講師として勤務されました。昭和23年2月同助教授となり、昭和30年7月から昭和31年10月までアメリカ・マサチューセッツ工科大学、C.ワグナー教授の下へ客員研究員として出張されました。帰国後の昭和35年4月教授に昇任し、同氏が中心となって新設された合成化学工学科化学反応工学講座を担当され、爾来23年に亘り反応工学、とくに触媒化学及び触媒反応装置工学の研究・教育に従事されました。また、昭和42年10月から12月まで中華民国成功大学客員教授を務められました。

昭和58年4月、ご停年1年前に室蘭工業大学学長に就任され、任期満了の平成3年3月まで3期8年間にわたり学長を務められたのち、平成3年4月室蘭工業大学名誉教授になられました。この間、昭和58年4月には北海道大学名誉教授の称号を授与されております。平成4年4月からは、北海道武蔵女子短期大学学長に就任され6年間務められたのち、平成10年3月、半世紀以上に及ぶ大学での研究・教育並びに管理運営の職から退かれました。

同氏は研究面において、固体触媒反応の解析的研究方法の開発及び化学反応装置の開拓的研究を推進し多大の成果をあげられました。固体触媒反応関連の研究では、「気固接触反応の速度論的研究」、「過渡応答法の開発及び過渡応答法による気固接触反応の解析的研究」並びに「触媒の調製と設計に関する研究」を、また、化学反応装置に関する研究では、流動層反応装置の「一般化モデルの確立」及び「層内の気泡及び粒子の挙動」に関する理論的及び実験的研究、並びに「石炭の燃焼及びガス化に関する研究」を進められました。これら一連の独創的な研究に対して、昭和58年日本化学会賞が授与されました。また、産学共同を通じた地域の発展、活性化に対する多大な貢献により平成4年度北海道科学技術賞を受賞されました。

北海道大学在職中は工学部評議員（昭和56年

6月～昭和58年3月）をはじめ、工学部施設委員長、汎用シミュレーター施設運営委員長、国際交流委員会委員などを歴任され、本学並びに本学工学部の管理運営に尽力されました。昭和58年4月、室蘭工業大学長に就任されてからは、同大学の教育研究組織の見直し、同大学工学部（第一部、第二部）及び大学院工学研究科修士課程の改組再編を行うとともに、同研究科博士前期・後期課程の設置に尽力されました。さらには、海外の大学と学術交流協定を締結し、研究者及び留学生の交流を振興するなど国際交流を推進し、大学の国際化に務める一方、学術振興・国際交流基金を設立し、学術交流の質的充実に尽力されました。平成4年4月からは北海道武蔵女子短期大学長に就任され、同大学の管理運営及び人間性豊かな学生の育成に力を注がれました。

学会活動においては、日本化学会北海道支部長、触媒学会北海道地区代表及び触媒学会長などを歴任され、昭和60年に触媒学会名誉会員に選出されました。また、化学工学会においては、研究・教育部門委員会常任委員及び研究委員会委員長などを務められ、平成5年には、同会名誉会員に選出されました。さらに、国際交流活動においても、APCCChE（アジア太平洋化学工学連合）実行委員や国際触媒会議実行委員などとして活躍される一方、欧米や中国における国際会議において広く活躍し、反応工学の分野の発展に大きく貢献されました。

一方、大学外においては、学術審議会専門委員、国立大学協会第2常置委員会委員、図書館特別委員会委員及び学術情報特別委員会委員長などを歴任され、我が国の高等教育の運営に深く関わっておられました。また、北海道科学技術審議会委員、北海道先端技術推進会議委員、北海道テクノポリス検討協議会委員などを務められ、地域の発展に多大な貢献をされ、室蘭市公益功労者、室蘭市産業経済功労者としての表彰も受けられました。

以上のように同氏は、化学反応工学の教育・指導・研究を通して、北海道大学及び同大学工学部等の運営に寄与し、我が国の化学工学、触媒化学界の重鎮として卓越した業績をあげ、我が国及び世界の関連領域の研究進展に多大な貢献をなし、平成9年4月29日には勲二等旭日重光章を受章されました。

ここに謹んで先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

(工学研究科・工学部)

〈編集メモ〉

▼8月は上旬に開催されたオープンキャンパス、緑のビアガーデンのほか、30日に行われた北海道マラソンなど、一般市民の方々に札幌キャンパスに来ていただく機会の多い月でした。特に今回初めて北大構内がコースとなった北海道マラソンでは、大勢の招待選手や市民ランナー達が、産学官連携の拠点となる研究施設が立ち並ぶ北キャンパスから構内に入り、重要文化財であるモデルバーン、南

北1.2キロにわたるメインストリートを通り過ぎ、クラーク像、サクシュコトニ川が流れる中央ローンを横目に見ながらゴール地点である大通り西8丁目を目ざして走り抜けていきました。当日は給水ボランティアや応援などでも多くの方が参加しており、ランナーや市民の皆さんに北大キャンパスの美しさを見ていただくまたとない機会になりました。



2008. 8. 10 襟裳岬

——— 北の息吹[®] エゾトウヒレン (*Saussurea riederi* ssp. *yezoensis* var. *elongatum*) ———

これをナガバキタアザミの変種とする説には異論があるらしい。大雪山黒岳九合目付近で大群落を作るナガバキタアザミは、どちらかといえば洪めの花を付けるが、この変種の花色は誠に鮮やかで他の草に埋もれていてもよく目立つ。キク科の花はお互いに良く似たものが多く、その一員であるアザミやトウヒレンの仲間も素人には区別が難しいが、専門家でも分類の難しいグループであるらしい。

理事・副学長 岡田 尚武

北大時報[®] August 2009 No.665

平成21年 8 月発行

北海道大学総務部広報課

〒 060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目

TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-4870 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/bureau/populi/